

加治木温泉病院

2023 年度 医療法人玉昌会 加治木温泉病院

《理 念》

行動指針「低賞感微」に沿った医療・介護サービスを提供します。

《基本方針》

1. 患者さんの尊厳と権利を尊重します
2. 患者さんの視点に立ち、安心・安全な治療に努めます
3. 地域包括ケアシステムを基に、全世代に生活支援サービスを提供します
4. 『健康経営宣言』に則り、安心して働きがいのある職場づくりに取り組みます
5. 地域住民や職員の健診事業や健康増進事業に取り組みます

《運営方針》

1. 患者さんの医療・介護の質の確保と安全に努めます
2. 慢性腎臓病（CKD）を中心とした腎疾患診療部門の充実を図ります
3. 健診事業による5疾病の未病・予防に取り組みます
4. 『健康経営宣言』に則り、療養・職場環境の改善に努めます
5. 人財の確保および育成に努めます
6. 地域共生社会の実現に取り組みます
7. 地域のニーズにあった病院機能の見直しを行います
8. 将来の病院機能を見据えた病床機能の再編に取り組みます
9. 病院の新築移転に向けての取り組みを進めます

加治木温泉病院の沿革

加治木温泉病院の沿革

- 1978年 6月 加治木温泉病院開設 病床数 100 床
- 1985年 7月 増改築により増床 人工腎臓センター開設・人工透析開始
- 1989年 7月 C T・M R I 導入
- 1994年 5月 人工腎臓センターを別棟として増設
- 1997年 11月 浴室・管理棟を増設
- 1997年 12月 350 床に増築
- 1998年 12月 療養二群入院医療管理（Ⅰ）基準承認
療養型病床群療養環境（Ⅱ）（Ⅲ）基準承認
- 1999年 6月 総合リハビリテーション施設承認
- 2000年 2月 介護療養型医療施設承認（91 床）
- 2001年 4月 療養病棟入院基本料Ⅰ基準承認
介護療養型医療施設 117 床に増床
療養型病床群療養環境（Ⅰ）（Ⅱ）基準承認
- 2001年 5月 回復期リハビリテーション病棟基準承認（54 床）
- 2002年 4月 地域リハビリテーション広域支援センター認定
- 2002年 5月 日本医療機能評価機構 認定証取得
- 2002年 10月 特殊疾患療養病棟入院料 2 基準承認
- 2007年 5月 日本医療機能評価機構 Ver. 5 認定証取得
- 2008年 12月 日本医療機能評価付加機能（リハビリテーション機能）認定
- 2009年 1月 一般病棟入院基本料（13：1）承認（30 床）
- 2009年 2月 亜急性期入院医療管理料（Ⅰ）承認（10 床）
- 2010年 2月 介護療養型医療施設（57 床）
療養病棟入院基本料 2（149 床）
- 2010年 4月 療養病棟入院基本料 1（119 床）
療養病棟入院基本料 2（90 床）
- 2010年 10月 国土交通省（J C A B）指定航空身体検査機関認定
- 2010年 11月 一般病棟入院基本料（13：1）承認（60 床）
療養病棟入院基本料 2（60 床）
- 2010年 12月 16 列マルチスライス C T 装置導入
- 2012年 5月 日本医療機能評価機構「Ver. 6 認定証」取得
- 2013年 4月 日本慢性期医療協会「慢性期医療認定病院」認定
- 2013年 8月 持続性推進機構「エコアクション 21」認定
- 2013年 12月 日本医療機能評価機構付加機能（リハビリテーション機能 Ver. 3.0）認定

- 2014年 10月 外科・消化器外科開設
- 2014年 12月 在宅療養後方支援病院基準承認
- 2015年 1月 回復期リハビリテーション病棟入院料1承認（54床）
- 2015年 2月 アメリカ連邦航空局（F A A）指定航空身体検査機関認定
- 2015年 3月 電子カルテ導入
- 2015年 4月 回復期リハビリテーション病棟入院料1体制強化加算承認
標榜科目に神経内科、頭頸部外科を追加
- 2015年 5月 一般病棟（13：1）60床を地域包括ケア病棟入院料2へ転換
- 2015年 6月 がん患者リハビリテーション料承認
- 2015年 7月 地域包括ケア病棟入院料1承認
- 2015年 11月 介護療養型医療施設（57床）療養機能強化型B承認
- 2015年 12月 介護療養型医療施設（57床）療養機能強化型A承認
- 2016年 1月 標榜科目に肝臓内科を追加
- 2016年 9月 開放型病院基準承認
- 2017年 3月 日本医療機能評価機構 3rdG：Ver. 1.1 認定証取得
- 2017年 12月 超電導型MRI装置（1.5T）導入
- 2018年 4月 皮膚科外来開設
- 2018年 5月 救急告示病院指定
- 2018年 6月 整形外科開設
- 2018年 7月 神経内科を脳神経内科へ変更
- 2018年 12月 介護療養型医療施設（57床）を介護医療院へ転換
- 2019年 4月 日本医療機能評価機構付加機能（リハビリテーション機能Ver. 3.0）更新
- 2019年 8月 介護医療院 80床へ（23床増床）
歯科用CTの導入
- 2019年 12月 療養病棟入院基本料2を地域一般入院料3へ転換
- 2020年 1月 脳神経外科を開設
- 2020年 4月 国土交通省 短期入院協力病院 認定
- 2020年 11月 診療・検査医療機関 指定
- 2021年 5月 地域一般入院料3（37床）→1へ転換
- 2022年 10月 日本医療機能評価機構 3rdG：Ver. 2.0 認定証取得
- 2022年 12月 加治木温泉病院の療養病床40床と介護医療院の療養病床20床を「介護医療院おはな」へ移したため、許可病床を変更。
療養173床→133床、介護医療院80床→60床
- 2023年 2月 新型コロナウイルス感染症受け入れ医療機関 指定

加治木温泉病院の概要

加治木温泉病院 2023 年度概要

名 称 医療法人玉昌会 加治木温泉病院

所 在 地 〒899-5241

鹿児島県始良市加治木町木田 4714

TEL (0995) 62-0001 FAX (0995) 62-3778

開 設 者 理事長 高田 昌実

管 理 者 病院長 夏越 祥次

診 療 科 目 内科 腎臓内科(人工透析) リハビリテーション科 整形外科
脳神経内科 脳神経外科 消化器内科 消化器外科 外科 肝臓内科
循環器内科 糖尿病内科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 皮膚科 泌尿器科
心療内科 歯科

病 床 数 230 床

- ・ 地域包括ケア病棟入院料 2 (60 床)
- ・ 回復期リハビリテーション病棟入院料 1 (54 床)
- ・ 療養病棟入院基本料 1 (79 床)
- ・ 地域一般入院料 1 (37 床)

介護医療院 I 型 (60 床)

社会保険等指定

健康保険、国民健康保険、労災保険、生活保護、身体障害者福祉法指定医、
結核予防法、原子爆弾被爆者一般疾病医療、自立支援医療

施 設 基 準 療養病棟入院基本料、診療録管理体制加算 2、医師事務作業補助体制加算 2、
療養病棟療養環境加算 1、療養病棟療養環境改善加算 1、栄養サポートチー
ム加算、医療安全対策加算 2、感染防止対策加算 3、総合評価加算、データ
提出加算、入退院支援加算、認知症ケア加算、回復期リハビリテーション
病棟入院料 1、地域包括ケア病棟入院料 2、喘息治療管理料、糖尿病合併症
管理料、糖尿病透析予防指導管理料、ニコチン依存症管理料、開放型病院
共同指導料、排尿自立指導料、薬剤管理指導料、医療機器安全管理料 1、在
宅療養後方支援病院、検体検査管理加算 (I)、神経学的検査、CT 撮影及び
MRI 撮影、抗悪性腫瘍剤処方管理加算、無菌製剤処理料、脳血管疾患等リハ
ビリテーション料 (I)、運動器リハビリテーション料 (I)、呼吸器リハビ
リテーション料 (I)、がん患者リハビリテーション料、集団コミュニケー

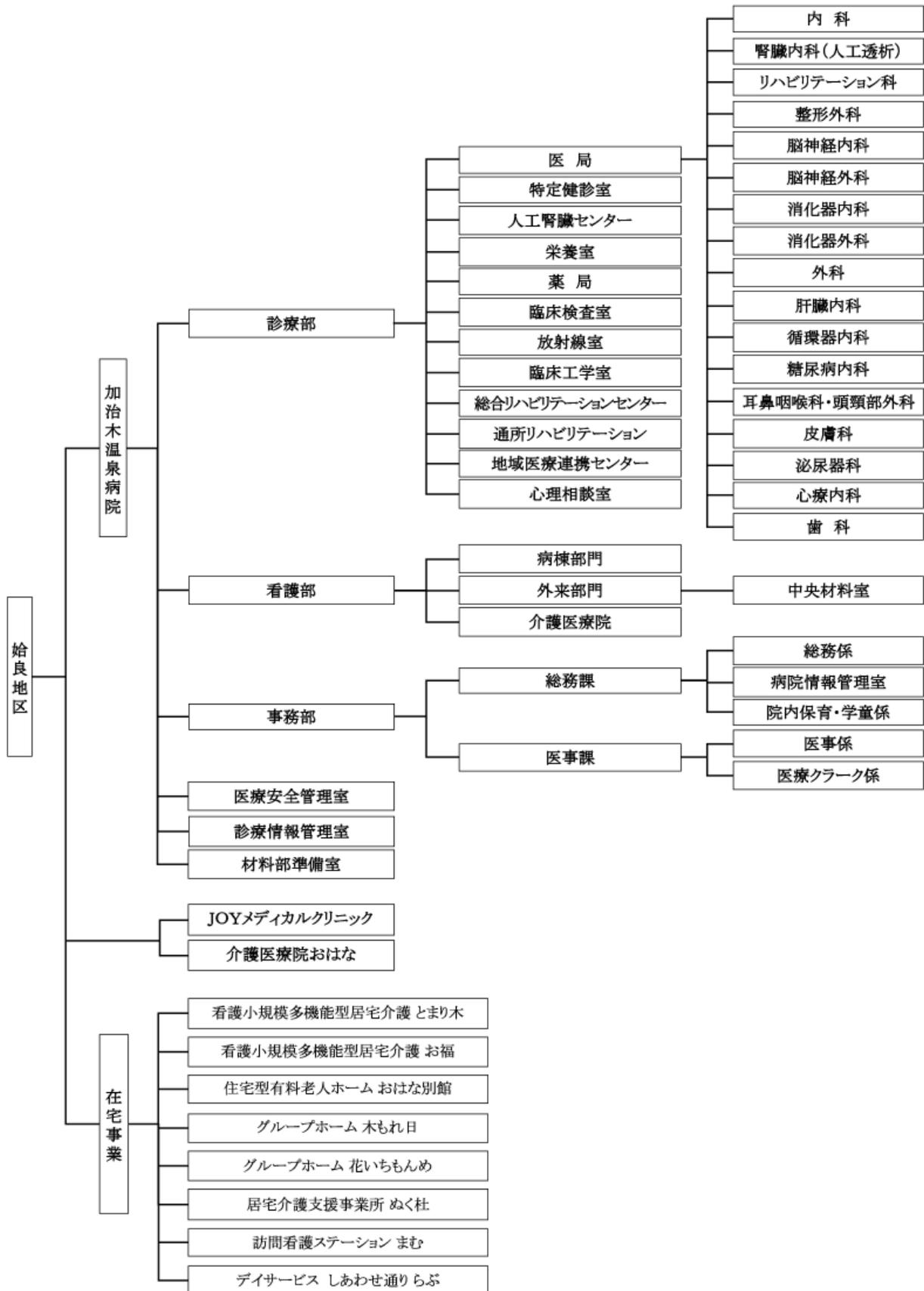
ション療法料、人工腎臓、導入期加算 1、透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算、下肢末梢動脈疾患指導管理加算、医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則の 16 に掲げる手術、輸血管管理料Ⅱ、胃瘻造設時嚥下機能評価加算、入院時食事療養(Ⅰ)・入院時生活療養(Ⅰ)、酸素単価、地域連携診療計画加算、二次性骨折予防継続管理料 2・3、がん性疼痛緩和指導管理料、地域一般病棟入院料 1、下肢創傷処理管理料、看護補助加算、後発医薬品使用体制加算 1、重症者等療養環境特別加算、情報通信機器を用いた診療に係る基準 歯科外来診療環境体制加算 1、歯科治療時医療管理料、在宅患者歯科治療時医療管理料、CAD/CAM 冠、クラウン・ブリッジ維持管理料、レーザー機器加算、口腔粘膜処置、有床義歯咀嚼機能検査 1 の口及び咀嚼能力検査、歯科口腔リハビリテーション料 2、歯周組織再生誘導術

広 報 誌 すこやか加温(年 4 回発行)

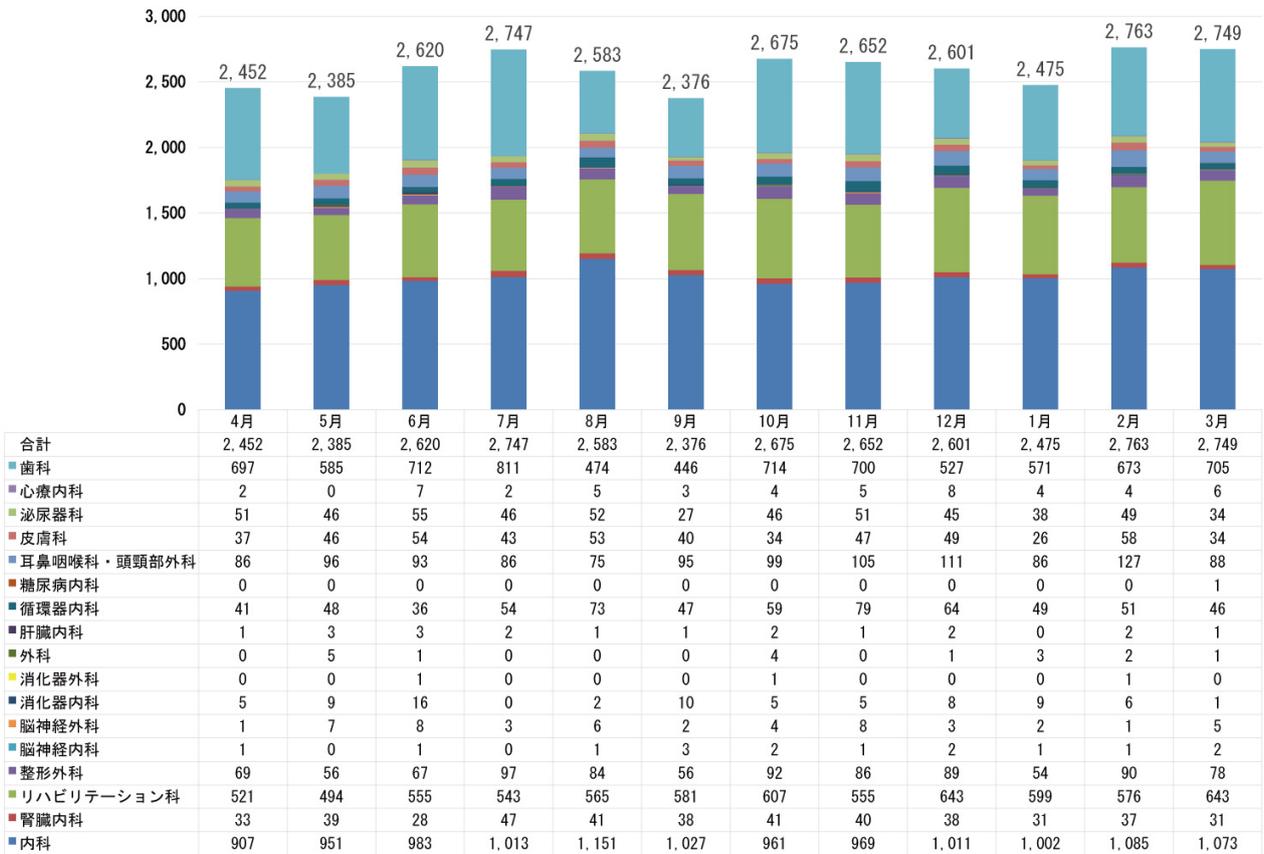
そ の 他 ・ 日本医療機能評価機構認定病院(3rdG:Ver. 2.0)

- ・ 日本医療機能評価機構付加機能
(リハビリテーション機能 Ver. 3.0 回復期)
- ・ 慢性期医療認定病院・日本温泉気候物医学会専門医教育研修施設
- ・ 日本透析医学会専門医制度教育関連施設
- ・ 在宅療養後方支援病院
- ・ 開放型病院
- ・ 通所リハビリテーション
- ・ 訪問リハビリテーション
- ・ 始良・伊佐高齢者保健福祉圏域地域リハビリテーション広域支援センター
(脳血管疾患等)
- ・ 航空身体検査指定機関
(アメリカ連邦航空局指定、国土交通省指定)
- ・ 消化器・大腸・胃・前立腺がん・肺がん検診精密検査医療機関
- ・ 肝疾患治療かかりつけ医療機関
- ・ 難病患者医療等専門医療機関
- ・ 日帰り人間ドック実施指定病院
- ・ 協会けんぽ生活習慣病予防健診指定病院
- ・ 薬学生長期実務実習受入施設・看護学校実習病院・医療福祉実習病院
- ・ 持続性推進機構エコアクション 21(環境省推奨)認定
- ・ かがしま子育て応援企業登録
- ・ 救急告示病院
- ・ 短期入院協力病院
- ・ 始良・伊佐高齢者保健福祉圏域地域リハビリテーション広域支援センター
(整形疾患等分野)

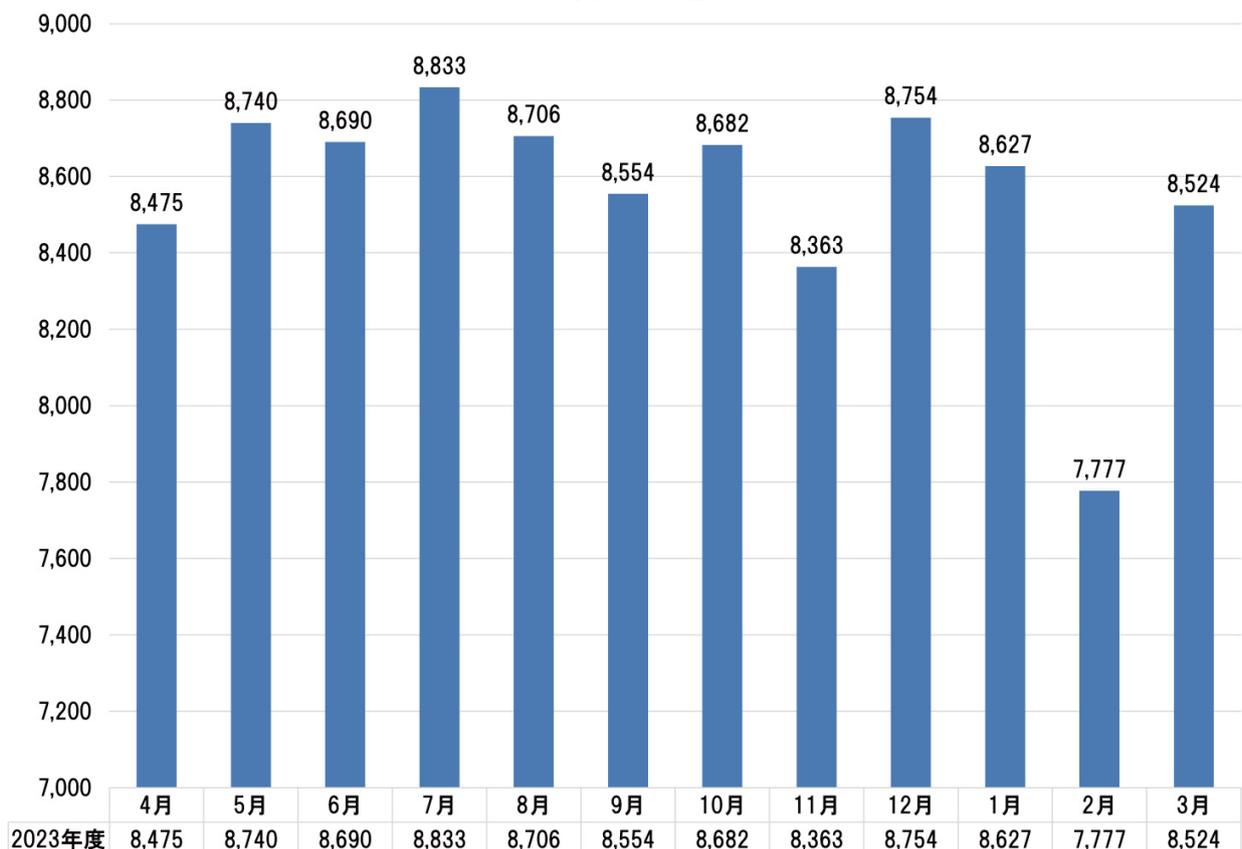
医療法人 玉昌会 始良地区 組織図 2024年4月現在



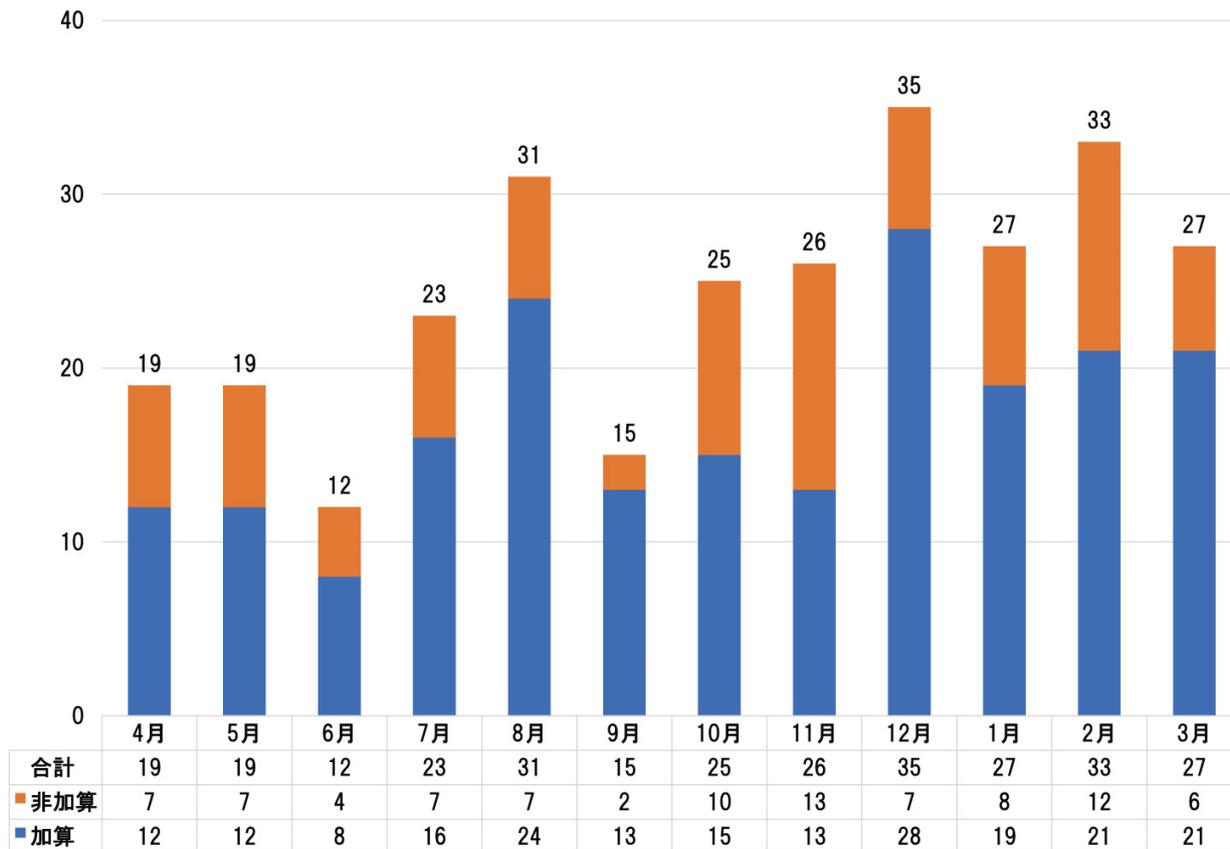
2023 年度 外来患者数診療科目別内訳



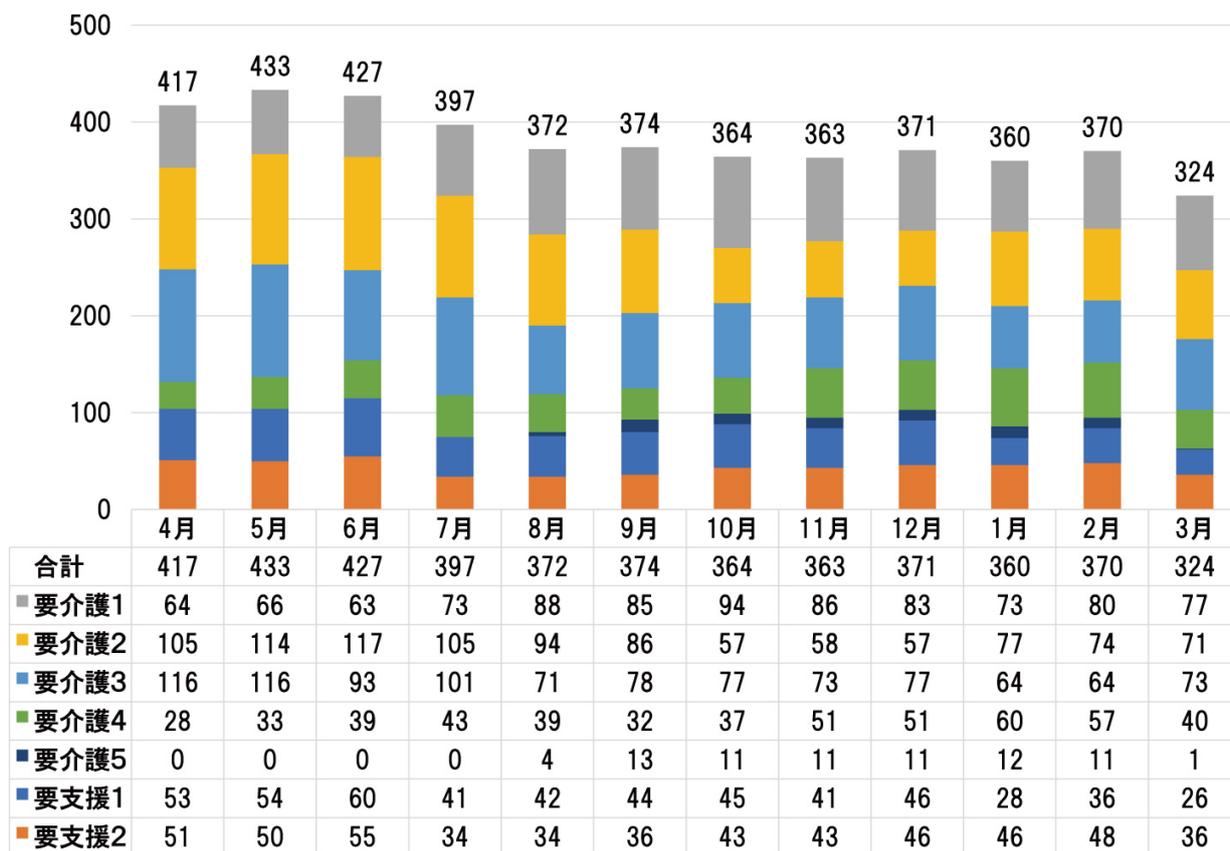
2023 年度 入院患者数



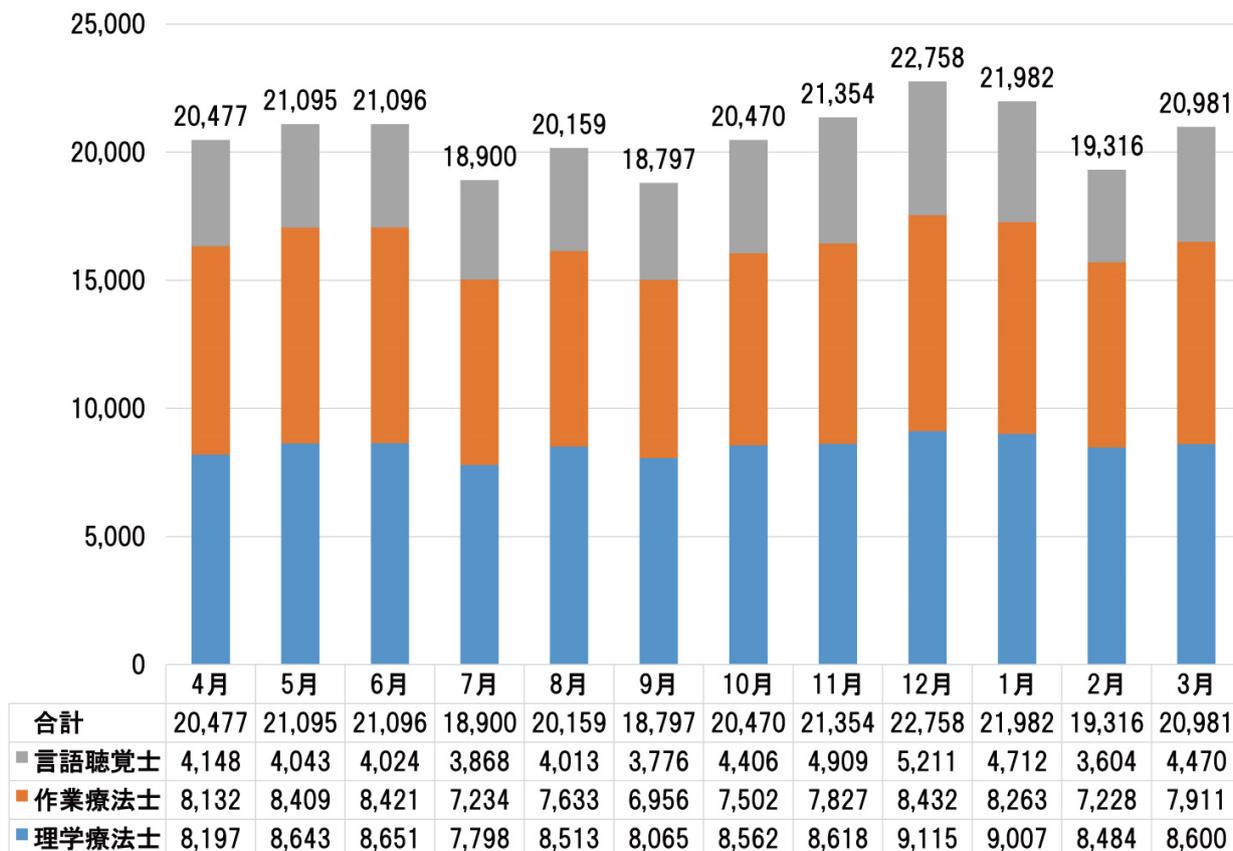
2023 年度 栄養指導件数



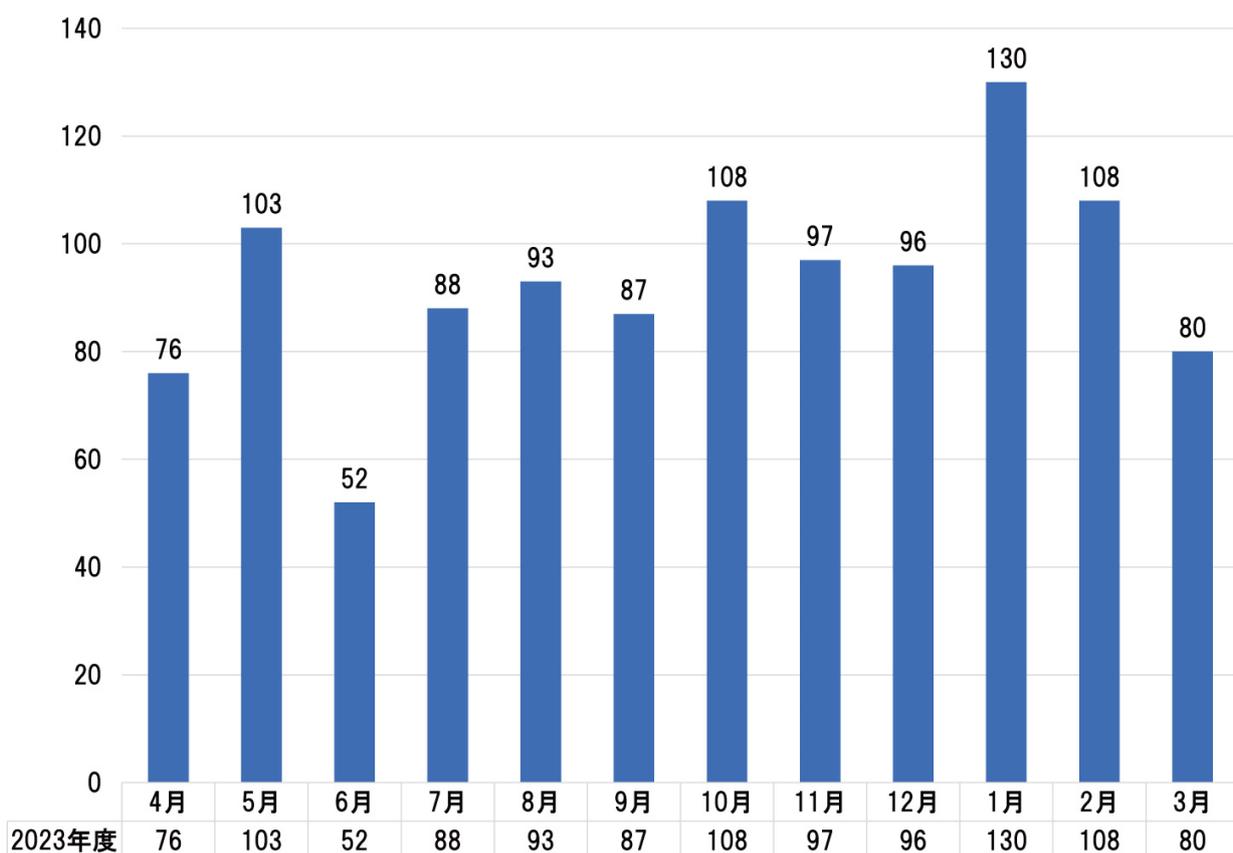
2023 年度 通所リハビリ利用者数



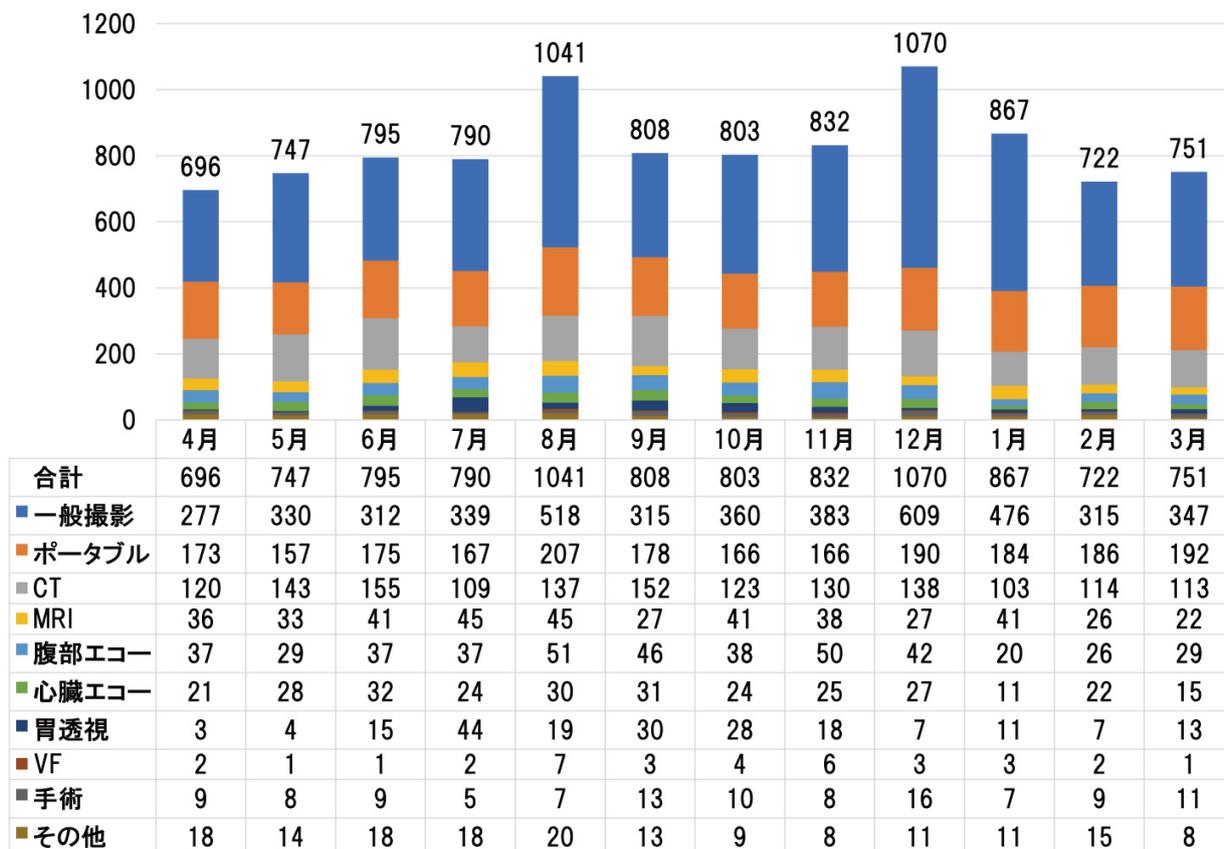
2023 年度 総合リハビリセンター患者取扱数



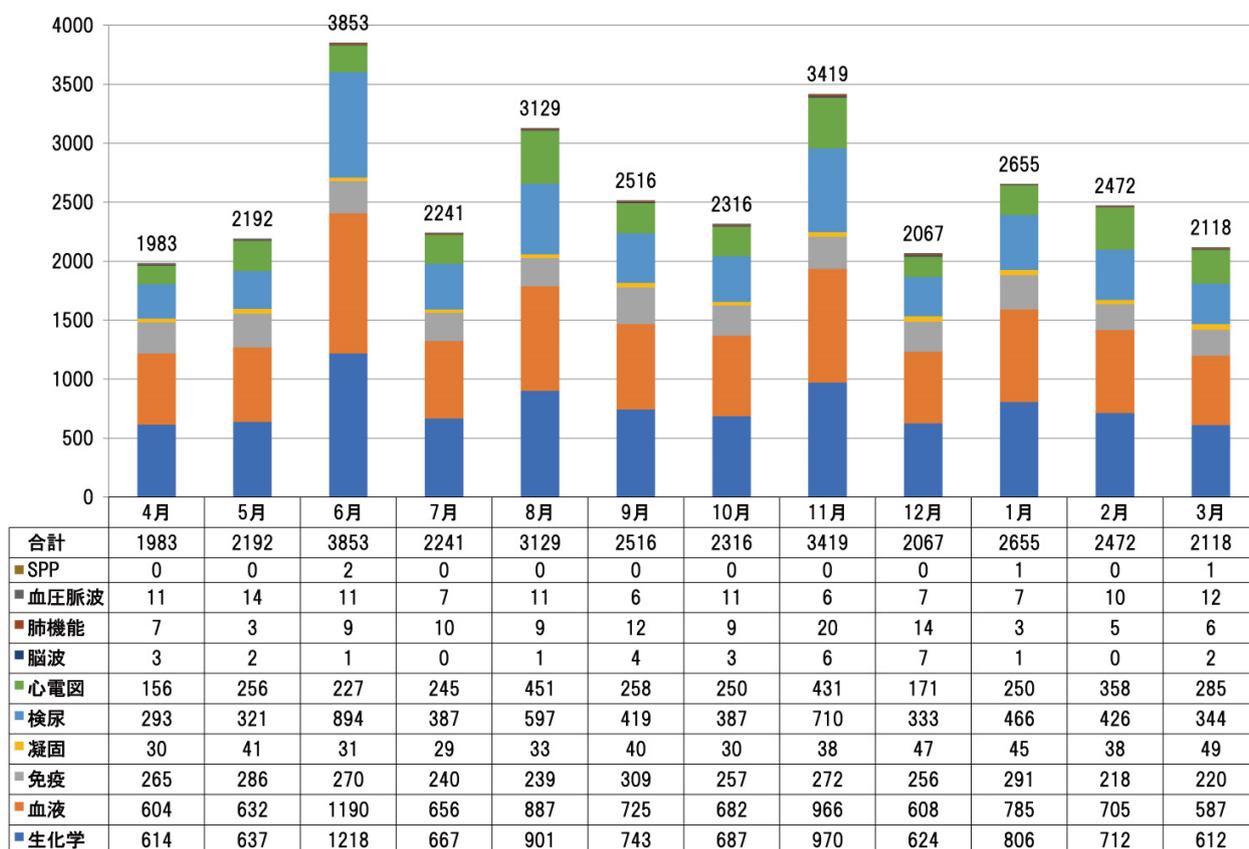
2023 年度 服薬指導件数



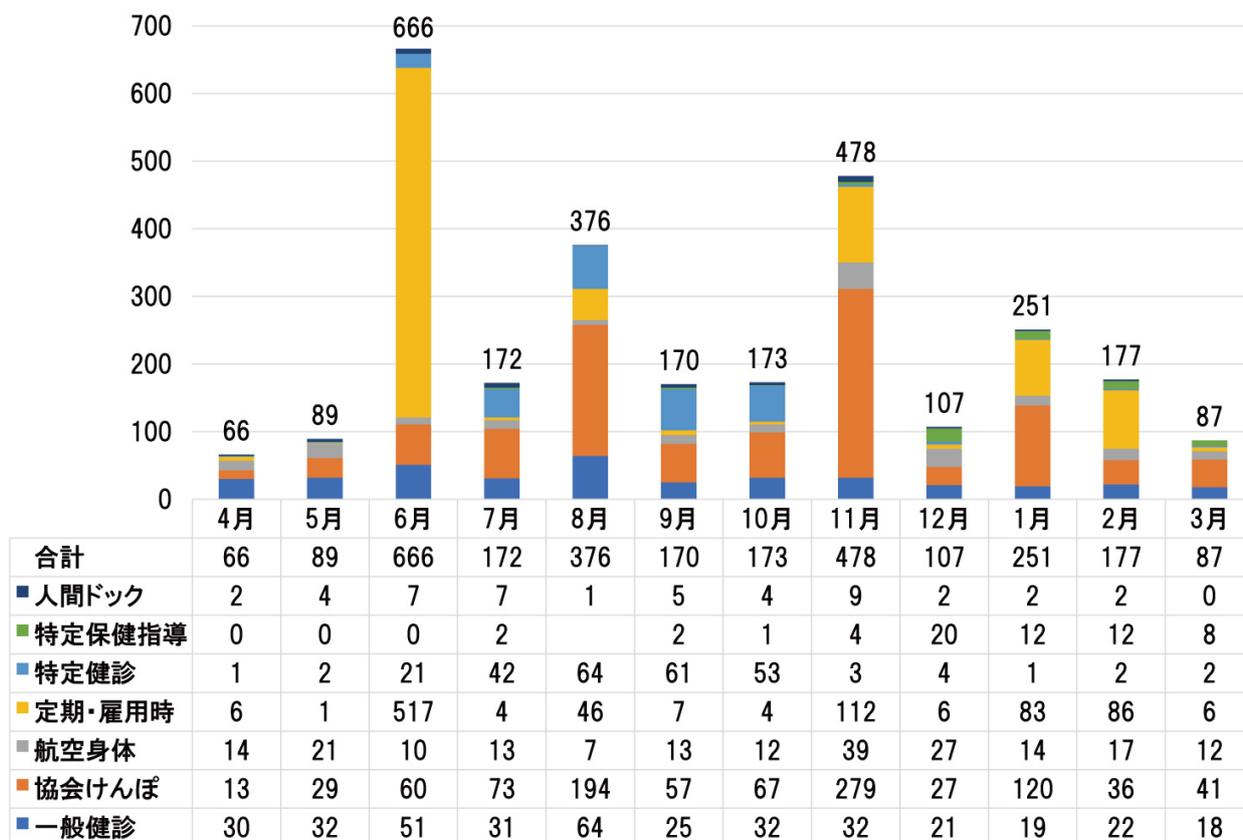
2023 年度 放射線室取扱件数



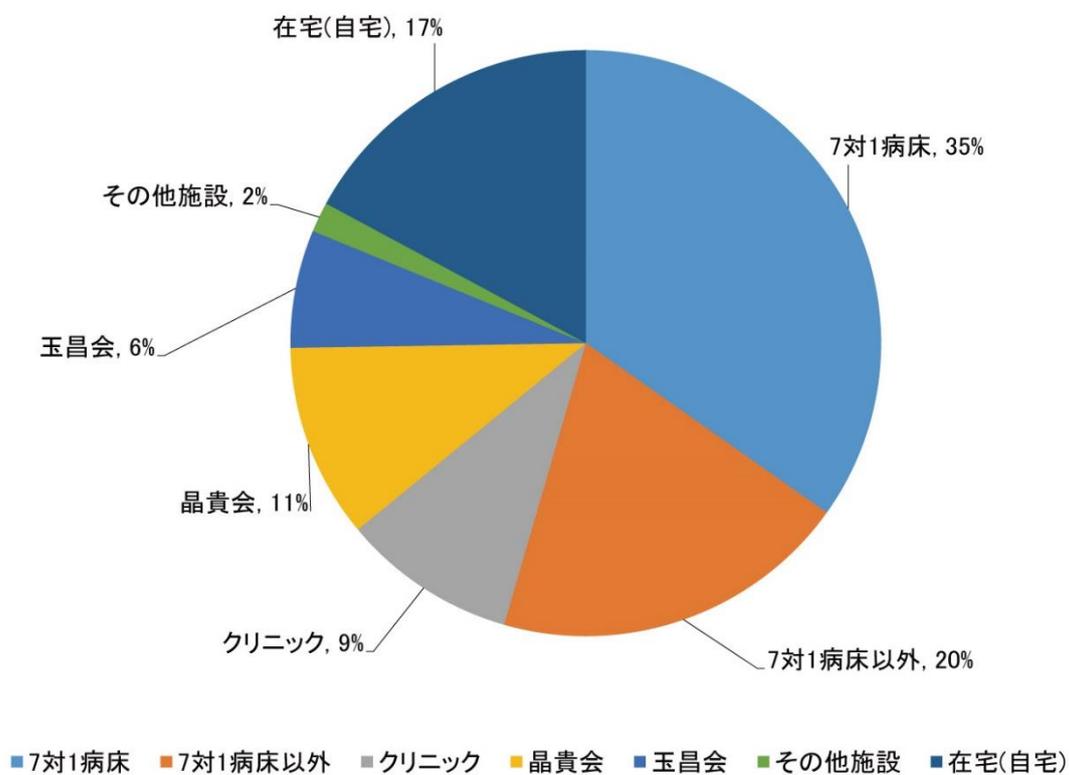
2023 年度 検査室取扱件数



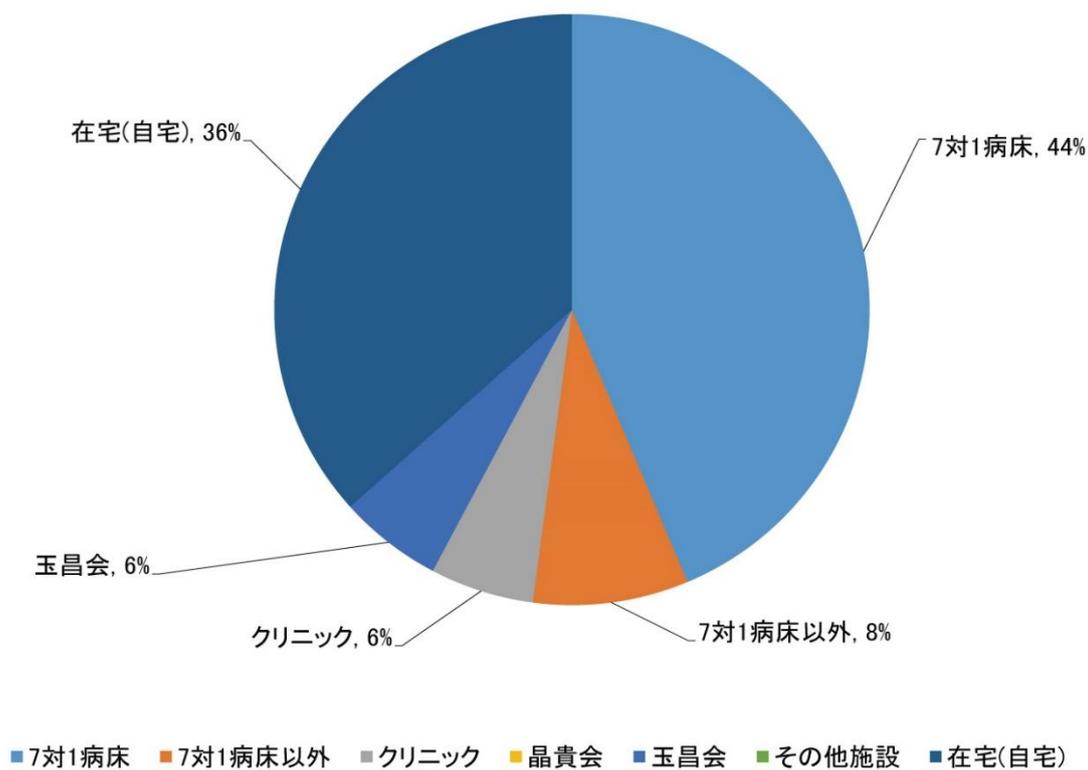
2023 年度 健康診断件数



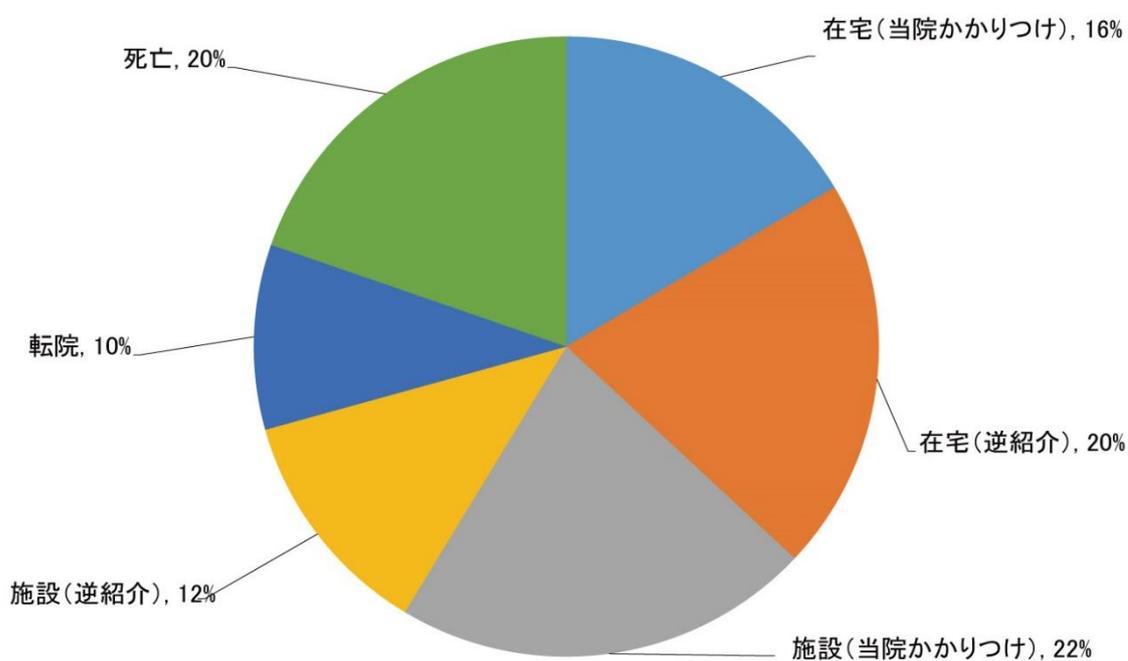
2023 年度 紹介元別割合



2023 年度 紹介元別割合 (透析)

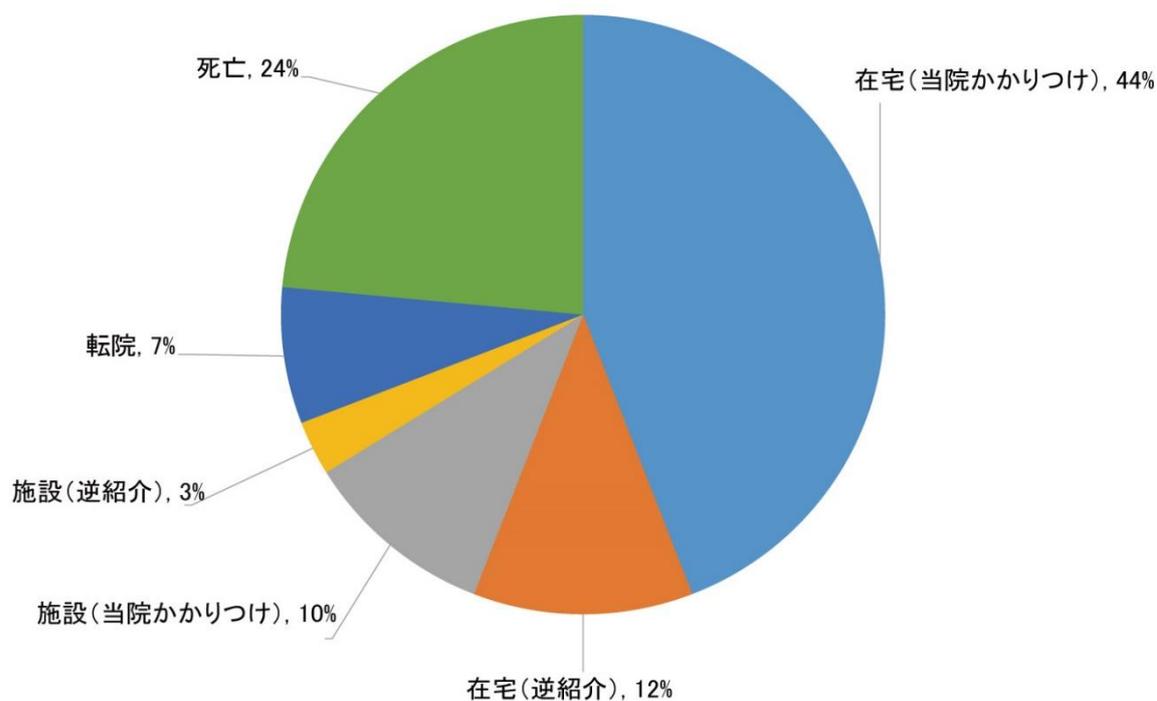


2023 年度 逆紹介元別割合



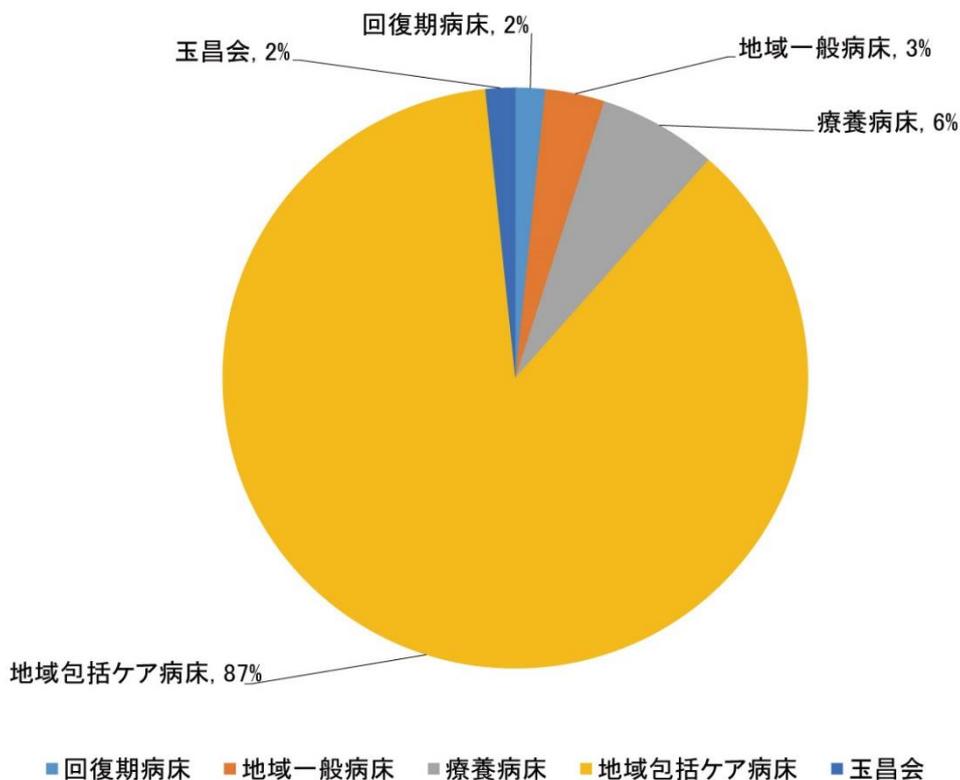
■ 在宅(当院かかりつけ) ■ 在宅(逆紹介) ■ 施設(当院かかりつけ) ■ 施設(逆紹介) ■ 転院 ■ 死亡

2023 年度 逆紹介元別割合 (透析)

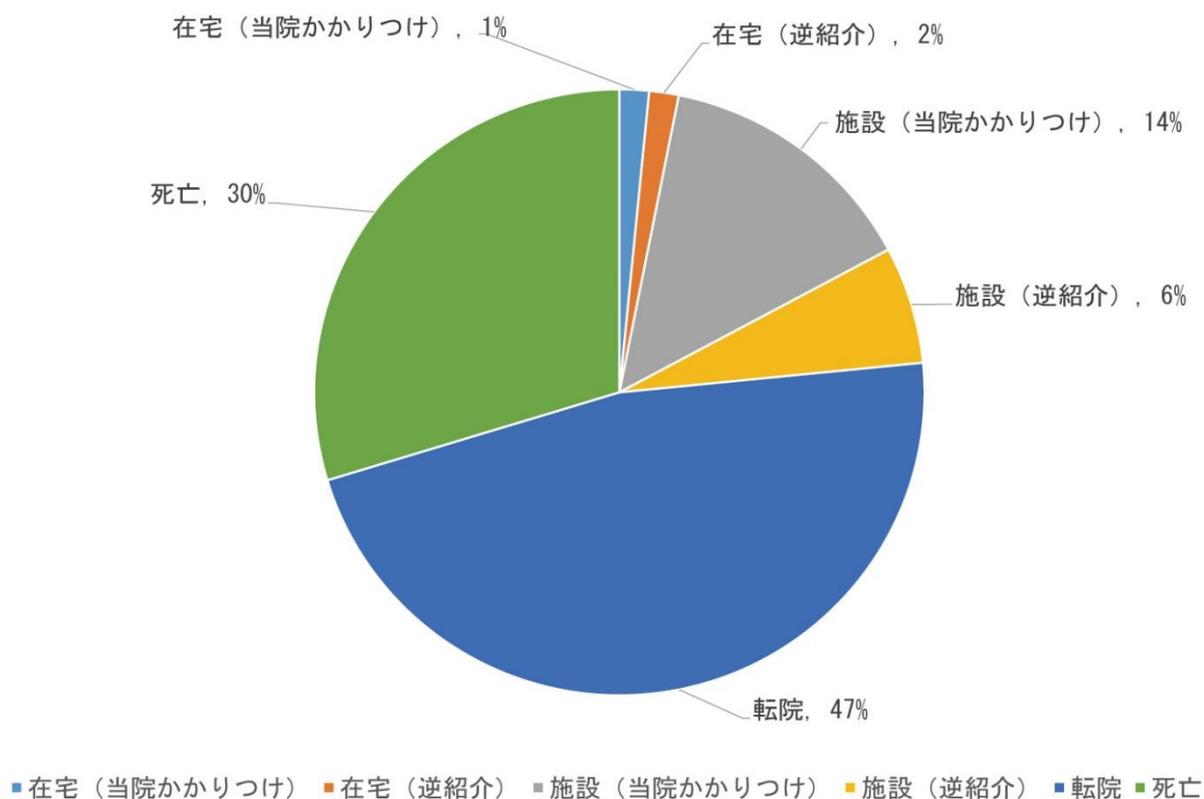


■ 在宅(当院かかりつけ) ■ 在宅(逆紹介) ■ 施設(当院かかりつけ) ■ 施設(逆紹介) ■ 転院 ■ 死亡

2023 年度 紹介元別割合 《介護医療院》

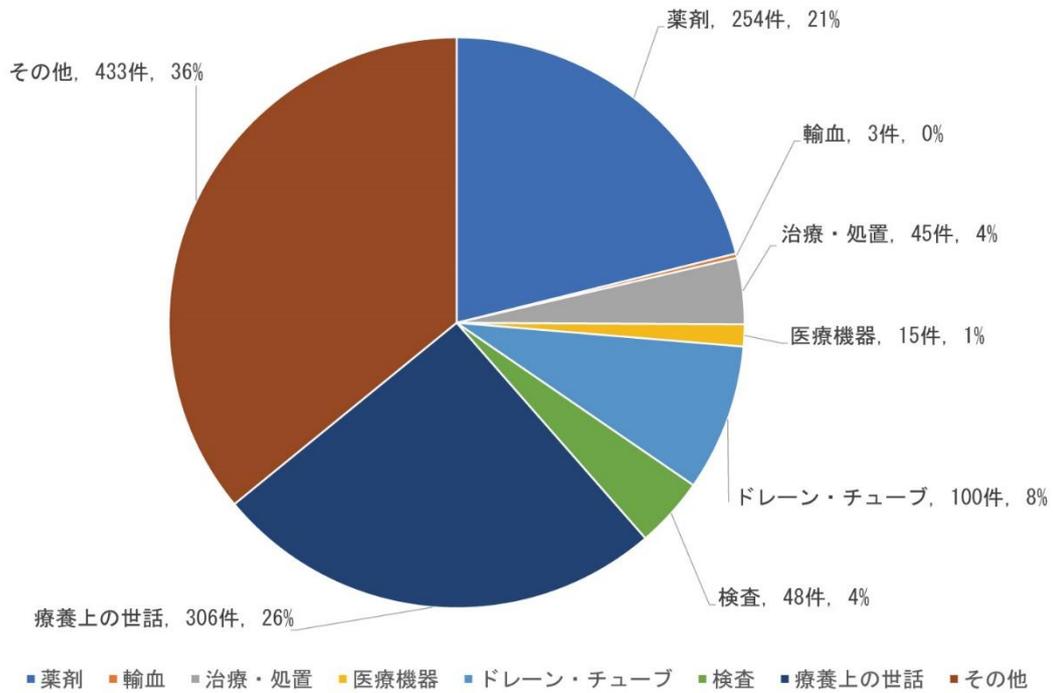


2023 年度 逆紹介先内訳 《介護医療院》

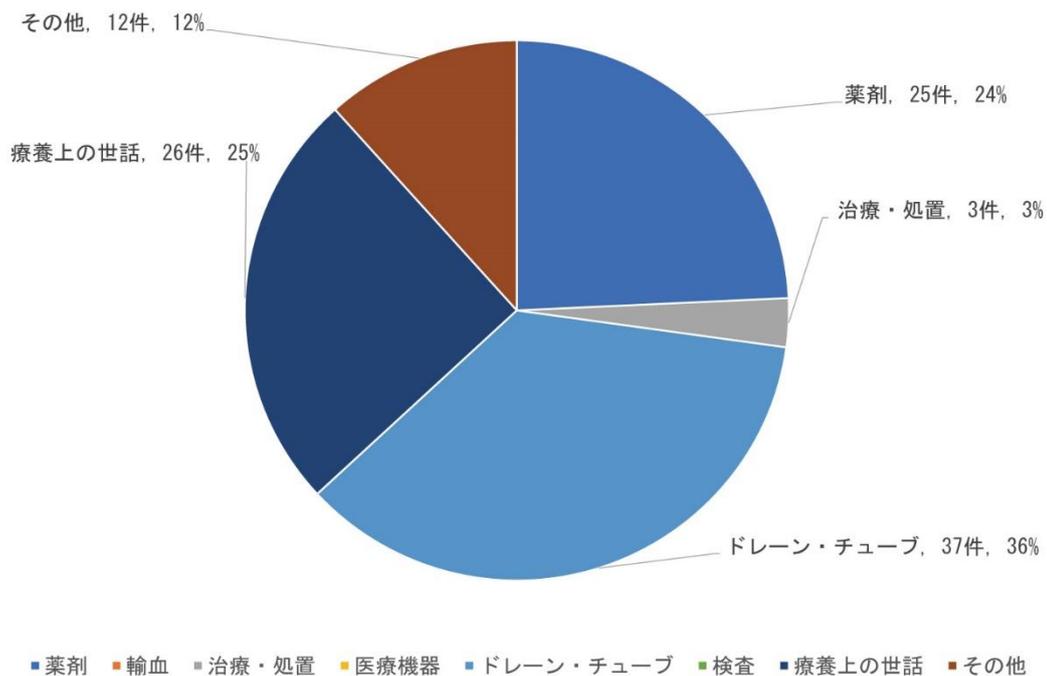


2023 年度 インシデント・アクシデント発生状況

要因別発生件数（加治木温泉病院）

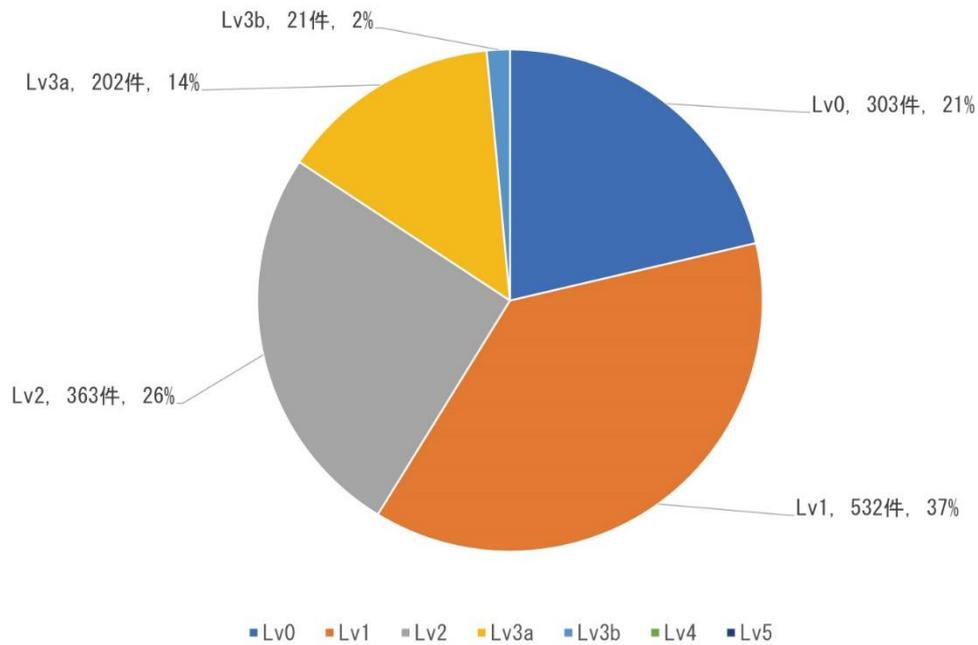


要因別発生件数（1型介護医療院）

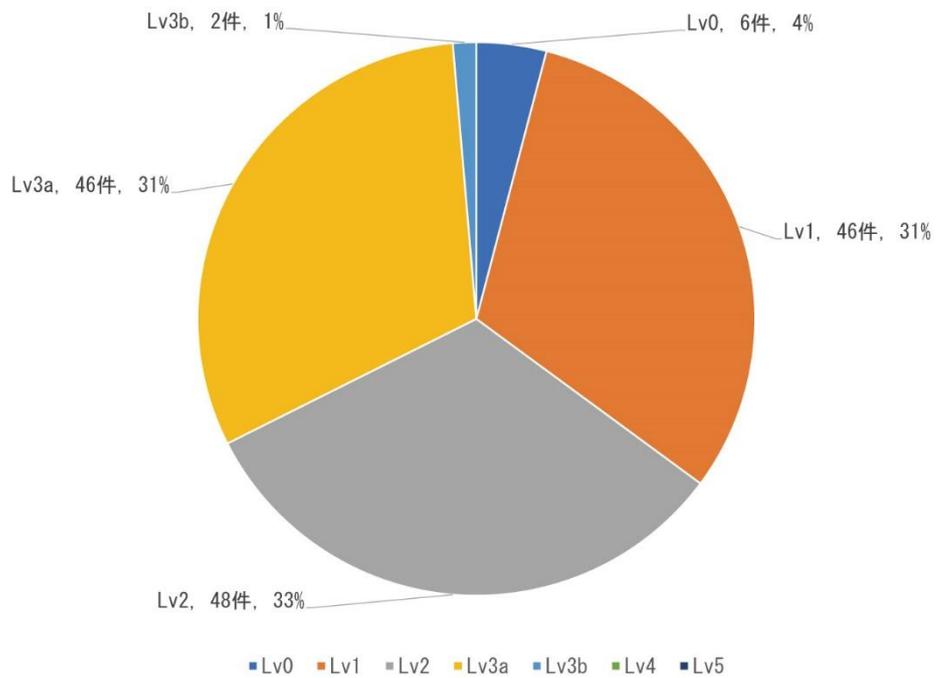


加治木温泉病院 統計

事故レベル別件数（加治木温泉病院）

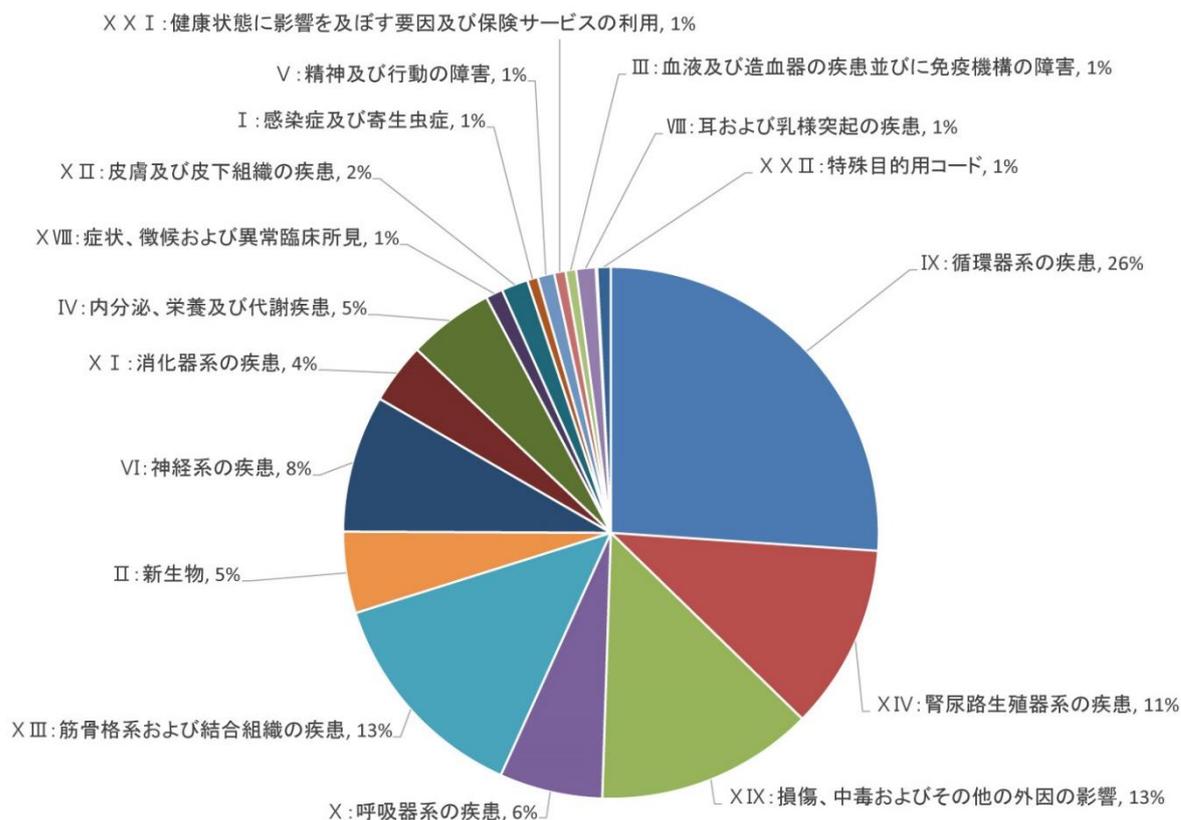


事故レベル別件数（1型介護医療院）



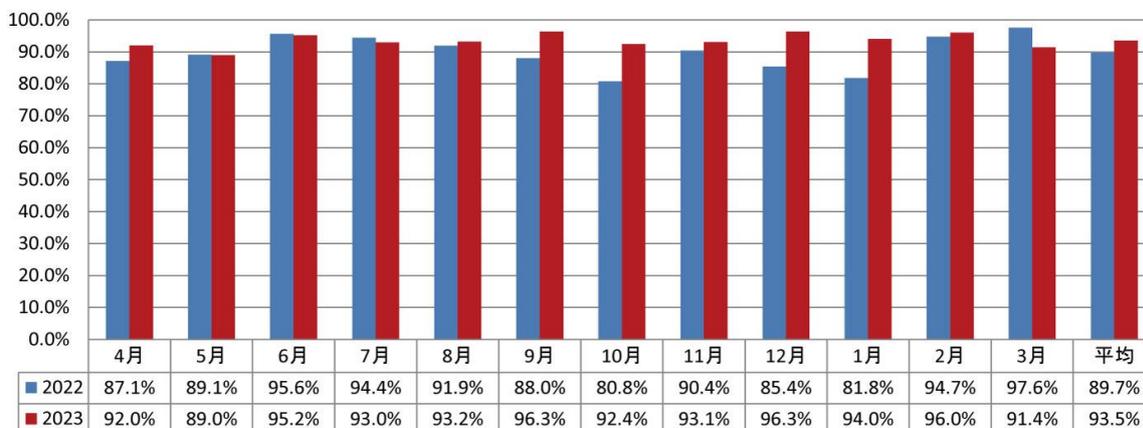
2023 年度 疾病別患者数

大分類名	2023年度
IX:循環器系の疾患	105
XIV:腎尿路生殖器系の疾患	45
XIX:損傷、中毒およびその他の外因の影響	53
XIII:筋骨格系および結合組織の疾患	54
X:呼吸器系の疾患	25
VI:神経系の疾患	34
II:新生物	20
XI:消化器系の疾患	15
IV:内分泌、栄養及び代謝疾患	21
XVIII:症状、徴候および異常臨床所見	4
V:精神及び行動の障害	4
XXI:健康状態に影響を及ぼす要因及び保険サービスの利用	3
I:感染症及び寄生虫症	3
XII:皮膚及び皮下組織の疾患	7
III:血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	3
VIII:耳および乳様突起の疾患	5
XVII:先天奇形、変形および染色体異常	0
VII:眼および付属器の疾患	0
XXII:特殊目的用コード	3
総計	404

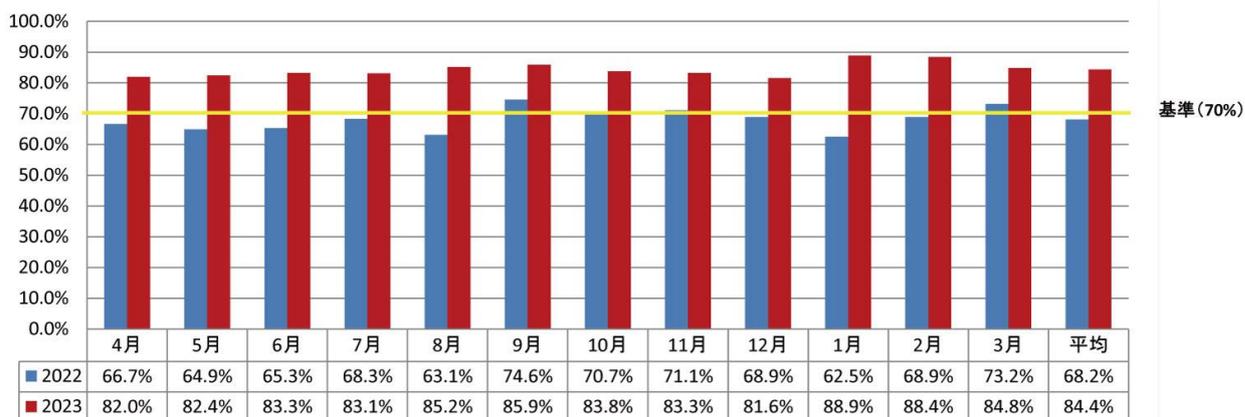


2023 年度 回復期リハビリテーション病棟の実績

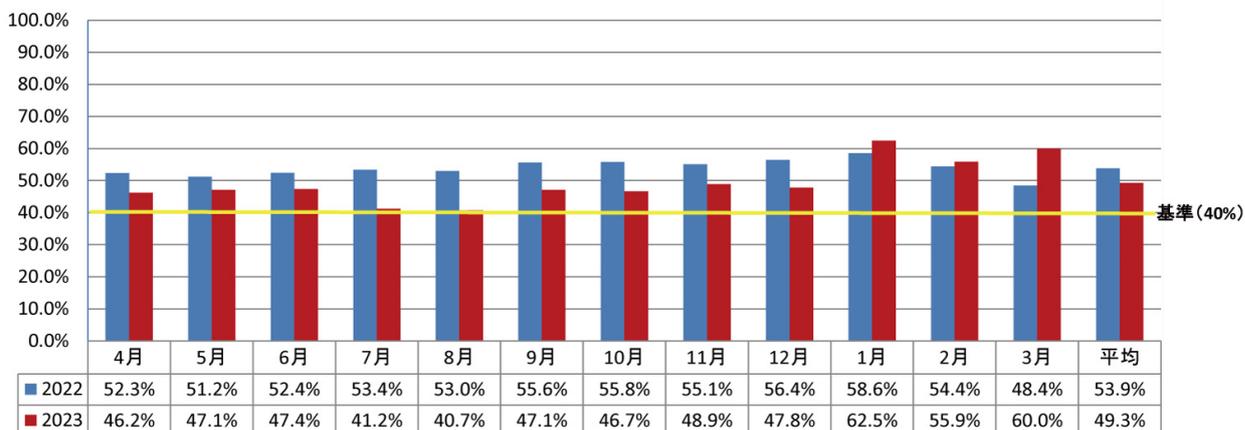
病棟稼働率（平均患者数／病床数）



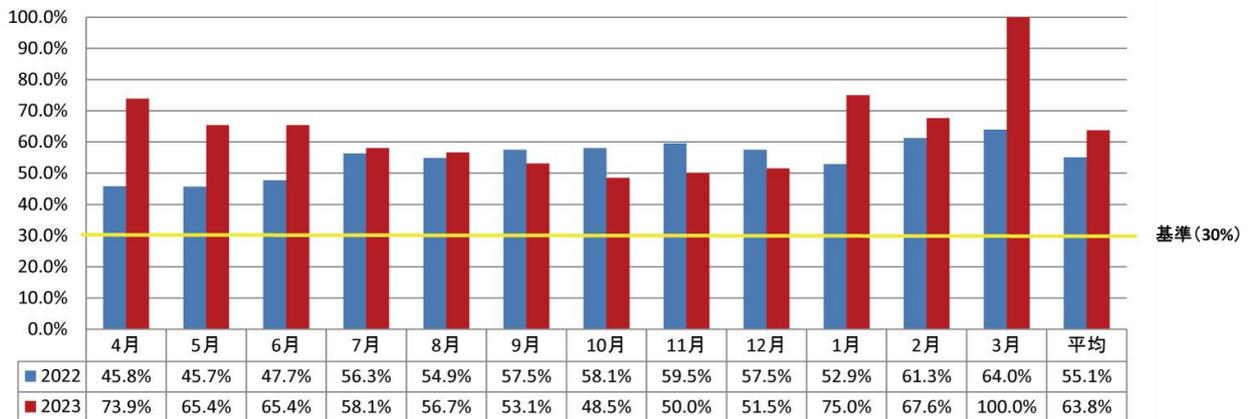
在宅復帰率（入院患者様が自宅等に退院される割合）



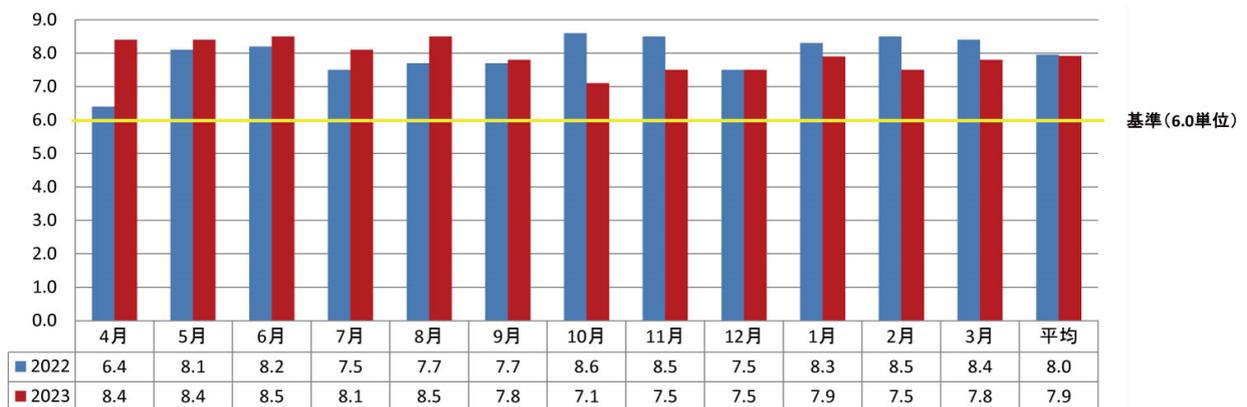
新規入院患者における重症者の割合（日常生活機能評価 10 点以上の患者の割合）



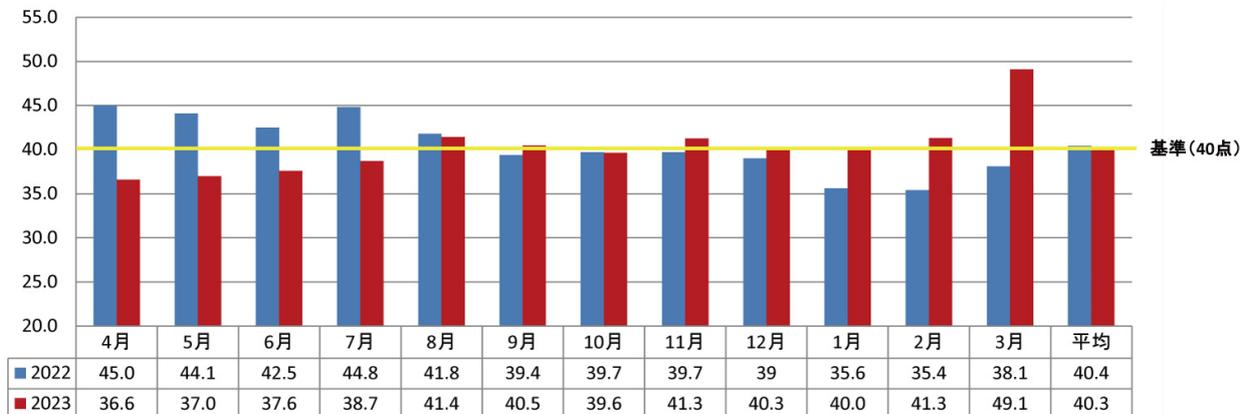
重症患者改善率（入院時重症患者のうち、日常生活機能評価4点以上改善した患者の割合）



リハビリ実施単位数（1日当たりのリハビリテーション提供単位数）



実績指数（退棟時F I M-入棟時F I M）／（入棟から退棟までの日数／厚生労働大臣が定める上限日数）



2階南病棟

【今年度の取り組み】

A-1. ACPに関する取り組み

達成目標：意思決定支援やACPについてシートを活用して関わることができる。ACPシートの評価と改善項目があげられる。

B-1. 稼働率

達成目標：96%

C-1. 看護・介護の質の確保

達成目標：褥瘡を未然に防ぐ取り組みができる。現状課題の抽出と課題改善策の実施。

D-1. キャリアアップ

達成目標：個人の実践能力の評価とステップアップ支援

【今年度を振り返って】

2023年度も、患者の尊厳や権利を尊重し、入院、転入後も安心・安全な医療・介護の提供が出来るよう患者・家族に寄り添い、継続した看護・ケアを多職種と行えるよう努めました。新型コロナウイルス感染症の位置づけは、5月から5類感染症へ移行しましたが、10月には新型コロナウイルス感染症が患者、職員において数名発生し一時期、病棟稼働率の低下がありました。今後も継続して感染症予防対策の徹底を行い、入院療養生活を安心して過ごせるように、又ご家族の気持ちに寄り添いながら、医療・看護を提供していきます。

2階西病棟

【今年度の取り組み】

A-1. 地域包括ケアシステムを意識した活動の強化

目標達成：患者の状態に合わせてACPシートを聴取し意思決定支援の実施率67%

B-1. 入院病床稼働率の向上（94%以上）

目標未達成：93.3%（コロナ感染症受け入れに伴う稼働の減少）

C-1. 業務負担の軽減（リフレッシュ休暇の促進）

目標達成：92.3%が取得

D-1. 専門性の強化

達成目標：専門性の向上に繋がる個人目標の達成率88.8%（特定行為2名、大規模災害支援ナース、BLS2名、ACLS1名の受講などあり）

【今年度を振り返って】

R5年度は感染対応に関しては、多職種や他部署の看護部の連携・協力のもと対応力のスピードも上がり、安心安全な看護の提供に繋がったと思います。また、患者さんに質の高い看護を提供していくためには、スタッフ自身のセルフケアが重要と感じ、勉強会、アンケートを実施し、個人のヘルシーリテラシーの結果も向上していました。自分自身を大事にすることで、スタッフ同士の協力や配慮も多くみられるようになりました。また、自部署では特定行為看護師2名が研修を終え、ベッドサイドでのきめ細やかケアや、医師の負担軽減を進めるためにもチーム医療の促進を図れるよう今後も努めて参ります。今年度は、看護の間接業務の見直しを行い、スタッフ1人1人の提案から看護業務の効率化、看護サービスの質向上に繋がっていきたいと思います。また、地域包括ケア病棟として、地域と連携を図り、療養の場が多様化する中で患者、利用者にあった支援を行っていきたいと思います。

2階東病棟

【今年度の取り組み】

A-1. 地域包括ケアシステムを意識した活動の強化

達成目標：ACPシートを用いてプライマリー看護師が対象患者様へ意思確認が出来る。

B-1. 外来患者入院病床稼働率の向上

達成目標：年間稼働率96%以上を目標とし、在院日数の短縮を図る。

C-1. 業務負担の軽減

達成目標：業務改善を行い、タスクシェア・シフトが出来る。また、業務スケジュールを立て残業時間の短縮に努める。

D-1. 専門性の強化

達成目標：計画に沿った研修会を実施し、受講・テスト実施100%。実践能力の評価とステップアップ支援が出来る。

【今年度を振り返って】

- ACPシートにて意思確認が出来たが81.2%。新規入院や転入患者へACPシートにて確認を行った。直接面会時や郵送での聞き取りを行ったこと、看護計画への追加修正を行い、今後の方向性の統一と確認が出来た。
- 上期はオーバーベッドでのコントロールであった。下期病院内の感染拡大や予定外の療養で欠員はあったが、年間稼働率は98.8%と維持出来た。在院日数の短縮では、3年以上の入院患者6名のうち3名の退院へと繋がった。
- 平均残業時間9.8時間であった。予定外の人員不足もあり、残業時間の延長に繋がったと考えられる。残業時間の延長はあったが、業務改善案も上がり、実施できた。
- 上期、下期研修会実施100%、研修前後に実施したテストを実施し、学習習熟度も上がり、個人の意識が高まった。

3 階南病棟

【今年度の取り組み】

A-1. 患者満足の視点

達成目標：意思決定支援やACPについての勉強会を行い、ACPシートの活用率100%を目指す

B-1. 稼働率の向上

達成目標：今年度の平均稼働率は96%を目標とする。

C-1. 業務負担の軽減

達成目標：業務改善チームを立ち上げ業務負担を軽減するための検討業務改善案を10個以上提案し計画を立てて残業時間を1/3に軽減する

D-1. 専門性の強化

達成目標：年2回の面談を行いラダー状況を本人に伝え必要なステップアップ支援を指導し個人目標を設定出来る。

【今年度を振り返って】

ACPの理解を深める為勉強会を実施。参加率は100%であったが患者さまからの聞き取りが困難な事例もあり活用率は91%であった。

稼働率もノロウイルスのアウトブレイクもあり、部屋調整、感染対策等強化したが93.9%と目標達成には至らなかった。

業務改善は看護補助者の人員不足や介護計画の導入で残業率が月平均19時間を上回っていたが、看護師で看護補助者の業務をタスクシフトシェアする事とモバイル端末を3個から7個へ増やした事で36%の残業削減できた。看護師の残業は月平均11時間と変化なし。

専門性の強化は院内研修参加率は88.9%院外研修は65.2%。FIMやICF、認知症ケア加算のフィードバック研修は実施。参加率は100%だった。

3 階西病棟

加治木温泉病院 部門別活動報告

【今年度の取り組み】

- A-1. 達成目標：意思決定支援やACPを活用し患者様・ご家族の意向を確認し看護の場面で実践できる
- B-1. 達成目標：平均稼働率94%以上を目指す
- C-1. 達成目標：感染予防に努め集団感染が発生しない
- D-1. ラダーに基づいた実践能力の評価とステップアップ支援

【今年度を振り返って】

入院・退院・転棟件数が多い病棟ですが、患者様に安心・安全な医療・看護が提供されるよう、取り組んでまいりました。入院される患者様・ご家族様向けの病棟パンフレットを随時更新し、入院時に患者様・ご家族へ入院生活について説明を行うことで、安心感をもっていただけるように努めました。また、コロナ禍で面会ができない状況でありましたが5類へ移行後面会が再開されました。面会に来られた際にご家族に患者様の状態を説明し現状を把握していただくように努めました。

今後も、患者様・ご家族が安心して入院生活を過ごされますよう、患者様に寄り添い、安心・安全な医療・看護・介護を提供していきます。

介護医療院

【今年度の取り組み】

- A-1. 地域包括ケアシステムを意識した活動の強化
達成目標：ACPシートを活用・評価し統一化を図る
- B-1. 外来患者数、入院病床稼働率向上
達成目標：介護医療院年間稼働率98%
- C-1. 業務負担の軽減
達成目標：業務改善計画書の作成を行い、業務完全に関する提案・見直しができる。
- D-1. 専門性の強化
達成目標：クリニカルラダーに基づいた研修への参加ができフィードバックができる。

【今年度を振り返って】

令和5年度は看護師2名、看護補助者1名へ夜勤体制の変更を行った。また、業務負担軽減に関して業務改善計画書の作成し業務変更の提案・見直しをすることが出来た。

病棟での季節ごとの催しやボランティアの方を招いての催しなど開催することが出来た。今後も互いに協力し合いより良い職場環境となるよう努めていきたい。

また、入所者様・ご家族様が安心・安楽に療養できるよう環境調整を行うとともに、地域社会とのつながりも大切にしていきたい。

外来

【今年度の取り組み】

- A-1. 意思決定支援
達成目標：定期受診する患者へACP聞き取りを行った。
- B-1. 加算取得率アップ
達成目標：特定保健指導専門員の研修へ2名参加し、資格を取得。食生活の改善が必要な方へ積極的指導を行った。
達成目標：睡眠時無呼吸検査機器を購入したため、患者への検査案内がスムーズに行えた。検査だけに留まらず、PSG一泊入院や、CPAP導入患者が増えた。
- C-1. 業務負担の軽減
達成目標：職員で業務改善を行い、残業時間削減へつながった。
達成目標：大腸ポリペクトミーのマニュアルの見直しを行い、準備や介助が単独で行える職員が2人増えたことで、業務負担の軽減へつながった。
- D-1. 専門性の向上

達成目標：各ラダーに基づき、ステップアップ支援を行う。

【今年度を振り返って】

- ACPの聞き取りを行う際、患者と医療者のACPに対する意識に差があり、聴取時苦慮する場合もあった。医療者だけでなく患者側もACPの必要性が分かるような取組みが必要であった。
- 特定保健指導の研修に二人参加し資格が習得出来た。資格習得後は、支援のため面談を実施したが、スタッフの協力があり勤務内でスムーズに行えた。
- 睡眠時無呼吸検査機器を購入したため、患者への検査案内がスムーズに行えた。検査だけに留まらず、PSG一泊入院や、CPAP導入患者が増えた。
- 残業時間短縮のため、スタッフ全員で業務改善内容を考え実施した結果、残業時間の短縮へとつながった。
- 内視鏡技師が主体となり大腸ポリペクトミーのマニュアルの見直しを行い、準備や介助が単独で行える職員が2人増えたことで、業務負担の軽減へとつながった。
- コロナが落ち着いてきたため、院外研修案内が増えてきた。質の高い看護・介護が提供できるように自己研鑽に努めていきたい。また、基本理念・行動指針を念頭に患者様の尊厳や権利を尊重したあたたかい看護の提供とチームワーク・職場環境の充実に努めていきたいと思う。

人工腎臓センター

【今年度の取り組み】

A-1. ACP

達成目標：ACPシートを外来透析患者へ説明。実施率100%

B-1. 加算取得

達成目標：シャントエコー100件/年間・手術件数150件/年間

C-1. 残業時間の短縮

達成目標：1人当たりの平均残業時間数2時間以内

D-1. 専門性の強化

達成目標：急変シュミレーション・災害シュミレーションを多職種で実施する

【今年度を振り返って】

2024年1月に能登半島地震が発生。私たちも日頃から災害に関して意識を高め、災害シュミレーションを1年に1回は多職種で行い、落ち着いて対応できるよう訓練が必要であると学んだ。

新型コロナウイルス感染症の位置付けは、2023年5月から5類感染症となり、隔離期間・濃厚接触者の待機時間の見直しがあった。アウトブレイクを数回経験したが、経験値を基に職員もスムーズに対応していた。医療は感染症と隣り合わせであるため、日頃から感染対策を行い、安心・安全に透析看護ができるよう、専門知識を向上し、多職種と連携しながら取り組んで参ります。

臨床工学室

【今年度の取り組み】

A-1. 患者満足度の向上

達成目標：外来透析患者様の満足度調査のMEに対する意見・苦情を0件にする。

B-1. I-HDF、online HDF 施行患者の増加

達成目標：診療報酬を多く獲得する為に（主治医の意向に沿いながら）I-HDF、online HDF 施行の患者を70%以上に保つ。

C-1. 医療事故、医療過誤の防止

達成目標：年間で30件以上のインシデントレポートを提出する。

D-1. アクセス管理

達成目標：医師の指示したルーティンを順守しVA管理（VAエコー目標100件、VA関連手術参加目標100件手）を行う。

D-2. 学会発表

達成目標：院外の学会・研究会で年1回以上の発表を行う。

【今年度を振り返って】

今年度は人員が増加し7名体制で業務を行うことができた。増員に伴い患者様と接する機会も増加したためか臨床工学室に対する意見・苦情等は報告されなかった。血液浄化業務では血液透析（HD、on-line HDF、I-HDF）以外にもG-CAP1症例26回、レオカーナ5症例59回、CART19回と特殊血液浄化業務も多く行うことができた。on-line HDF、I-HDFの割合は今年度末時点で67.9%と目標である70%を達成できなかった。来年度は通年70%以上を達成できるよう努めたい。VA管理ではVAエコー118件、VA関連手術118件に参加し院内完結型のVA管理を行うことができた。学会発表では日本透析医学会での発表と鹿児島県臨床工学技士会災害対策セミナーでの講演を行うことができた。今後も積極的に学会参加・発表等おこなっていききたい。来年度も玉昌会基本理念・行動指針を念頭に患者様に安心・安全な医療を提供できるよう努めてまいります。

総合リハビリテーションセンター

【今年度の取り組み】

- A-1. 目標：回復期リハビリテーション病棟全患者を対象とした目標共同決定の仕組み（フロー）を構築し、ADOC対象外の回復期リハビリテーション病棟患者に対して、目標共同決定のフローを実行する。
- A-2. 目標：当院のリハビリテーションをPRするための素材（実績等）を決めて、広報の基盤をつくり、当院のリハビリテーションに関するHPの内容を大きくアップデートする。
- B-1. 目標：上期・下期の回復期リハ病棟平均提供単位が8.1単位を上回る。
- B-2. 目標：回復期リハビリテーション病棟退院後、訪問リハビリテーションへつなげる仕組み（フロー）を構築し、回復期リハビリテーション病棟から訪問リハビリテーションへ3件以上つなげる。
- C-1. 目標：機能評価で求められる事項について、目標を決め、実行計画を立案し、実行する。
- C-2. 目標：PX調査表をアップデート（ver.4）し、患者1名以上に試行する（テストケース）。さらに回復期リハビリテーション病棟患者を対象に、PX調査表の運用を開始する。
- D-1. 目標：小児リハビリテーションに関する育成計画（研修内容）を明文化する。育成計画に基づいて、PT1名、OT3名、ST5名に研修を開始する。
- D-2. 目標：各部門、1演題以上、全国規模の学会へエントリーする。各部門、1演題以上、全国規模の学会で発表する。

【今年度を振り返って】

2023年度は、5月には、コロナウィルスが5類感染症へと変更されたが、2023年度も院内ではコロナウィルスクラスター、等が発生しリハビリテーション提供時の嚴重な感染対策やレッドゾーンでのリハビリテーションの提供、さらに病棟業務の支援など、通常とは異なる状況での活動となった。そのような中ではあったが、スタッフ全員で協力し安心安全な質の高い医療の提供に努めた。

バランススコアカード（BSC）の4つの視点ごとに2023年度の活動について報告する。患者満足の見点では、患者さんご自身とセラピストが共同して目標設定を行える支援ソフトであるADOCを回復期リハビリテーション病棟の仕組みに組み入れることができた。一方、ADOC対象外の患者さんの目標共同決定のフローの実行まで至らなかった。当院のリハビリテーションに関するホームページに関して、2018年以降大幅な見直しが行われていなかったため、内容の見直しをおこない、アップデートを行うことができた。健全経営の見点では、回復期リハビリテーション病棟における1患者1日の平均提供単位目標を前年度を超える8.1単位としたが、クラスターやマンパワー不足により年平均7.9単位と未達成となった。訪問リハビリテーションの利用者獲得の取り組みとして、回復期リハビリテーション病棟退院後、訪問リハビリテーションにつなげる仕組みを構築し、目標件数3件を超える4件の新規利用者を獲得できた。医療の質向上の見点では、2024年5月受審予定の病院機能評価高度専門機能に向け計画的な準備を進めることができた。患者満足度を評価するためのツールとしてPX（患者経験価値）に基づく評価票を作成し、回復期リハビリテーション病棟での運用開始を目指したが、テストケースでの課題について十分な解決に至らず運用開始できなかった。学習と成長の見点では、小児リハビリテーション従事者の育成計画の明文化と計9名の新規の育成を目指し、計画通り9名育成することができた。病院の目標としての学術的活動の計画的推進（アカデミックホスピタルの実現）について各部門、1演題以上、全国規模の学会へエ

ントリー・発表する目標を立て、結果として、論文は、国外誌2編、全国誌2編、地方誌2編、研究会誌1編掲載。学会は、全国10演題、九州3演題、地方7演題を発表した。

2023年度は、コロナウィルス、その他の感染症の影響はあったが、患者満足度の向上を目指しつつ、病院機能評価高度専門機能で求められる質の高いリハビリテーション・医療の提供を実践できるような取り組みを進めることができた。また同時に、多くの学術活動にも取り組めた。2024年度4月には当院のリハスタッフは100名となった。大勢のスタッフが、法人・病院の目標、そして一人ひとりが掲げた目標に真摯に取り組み、結果として最高のリハビリテーション医療を提供できるリハセンターとなるよう努めたい。

総合リハビリテーションセンター 理学療法部門

【今年度の取り組み】

- A-1. PT部門の広報に関する内容をアップデートする
達成目標：当院のリハビリテーションに関する内容をアップデートする
- A-2. 住み慣れた地域における「参加」レベルで活動できる場へのリハの提供の場を支援する
達成目標：チームを作り、協力体制を確立し、依頼に対して通いの場などへ派遣対応していく
- B-1. 当院職員の腰痛発生率改善を図る
達成目標：腰痛予防の研修を3回以上開催する
- B-2. 回復期リハビリテーション病棟から訪問リハビリテーションへつなげる
達成目標：回復期リハビリテーション病棟から訪問リハビリテーションへ3件以上つなげる
- C-1. 腎臓リハビリのシステム作り・マニュアル化を行う
達成目標：腎リハに関わるスタッフがだれでも腎リハが行えるように過程を見直しマニュアルを作成する
- C-2. 院内および院外にて1演題以上の学会発表を行う
達成目標：全国学会1演題以上、合わせて2演題以上発表する
- D-1. 登録理学療法士取得の推進
達成目標：PTスタッフのうち登録理学療法士の資格を1名以上取得する
- D-2. 心リハ・腎臓リハ・骨粗鬆症リハ資格取得推進
達成目標：心リハ・腎臓リハ・骨粗鬆症の各資格取得の条件である学会の入会をいずれかに1名以上する

【今年度を振り返って】

令和4年度より3年計画として当院職員の腰痛発生率改善を図ることと、心臓リハ・腎臓リハ・骨粗鬆症に関するリハ資格取得推進の取り組みを開始した。これは当院職員の腰痛による離職を防ぐことや、診療報酬改定に伴い「必要とされる人材」の育成が重要と思われるため、リハ資格の取得推進のために新たな取り組みとして開始した。今後は、計画に沿って腰痛予防の取り組みや資格取得へ向けての取り組みを進めていきたい。また令和4年度診療報酬改定に対応する形でキラメキとともに情報共有や他部署との連携を行い、算定要件に必要な事項に対応しながら腎臓リハビリのシステム作り・運用を行うことができた。腎臓リハビリは今後も注目されている分野であるため、今後も内容の見直しを行い、継続した運用をすすめていきたい。当院職員の労働環境に配慮した取り組みや病院の健全運営のために、今後も理学療法部門として出来ることを継続していきたい。

総合リハビリテーションセンター 作業療法部門

【今年度の取り組み】

- A-1. 地域で活躍できる人材を育成する。
達成目標：①地域リハ活動（サロン活動）に対応できる人材を1名以上増やす。
②子育て支援教室の講師を次年度から引き継げる人材を1名育成完了する。
- A-2. リハビリテーション目標共同決定の体系化。
達成目標：意思決定支援ソフト（ADOC）対象外の回復期リハ病棟患者に対して目標共同決定の仕組み（フロー）を周知し実行する。
- B-1. リハビリテーション実績の向上。

加治木温泉病院 部門別活動報告

達成目標：リハ実施提供単位数の上限目指す（達成指標：回復期リハ病棟の平均提供単位数が8.1を上回る。）

B-2. 小児リハ従事者の計画的育成。

達成目標：小児リハ対応出来る人財を2名以上育成し新人2名に対しても次年度からの開始を目指し計画的に育成していく。

C-1. 病院機能評価 高度専門機能リハの認定準備。

達成目標：機能評価で求められる事項について、機能評価委員を中心に OT 部署目標を決め、実行計画を立案し、実行する。

C-2. 臨床後の自由参加の症例検討会・勉強会の開催。

達成目標：自由参加の症例検討会・勉強会を計画的に開催する。1回はZOOM開催を行う。

D-1. 臨床実習生と新人育成の充実。

達成目標：昨今主流となってきた『診療（作業療法）参加型臨床実習』に則した臨床実習・新人教育内容について検討しOJTを中心とした指導が誰でも可能となるようマニュアル等の見直しを行う。

D-2. 学会・研究会発表もしくはその準備。

達成目標：上肢リハ装置研究や上肢機能回復に関する研究、県士会での発表などを推進する為の計画を立案・実践して、院内外で1演題以上は発表する。

【今年度を振り返って】

コロナ禍以降、依頼件数が減少していた地域リハ活動も増加してきており、対応できる人財を育成し増員できた。小児リハ分野も含めて今後も臨床現場での業務量を勘案しながら計画的に育成していく必要が有る。病院機能評価 高度専門機能の受審（2024年5月）に向けて他部署と協力しながら回復期リハ病棟のシステムも改善してきた。今後も継続してICFの活動・参加の視点から対象者の方と共に目標を立案し、作業療法を実践していく流れをブラッシュアップしていきたい。人口減少による働き手不足や働き方改革の影響もあり、今後ますます効率的な働き方を求められる中で、患者様と職員の双方とも健康を守ることが出来て、役立つ働き方をOT全員協力しながら目指していきたい。

総合リハビリテーションセンター 言語聴覚療法部門

【今年度の取り組み】

A-1. 地域包括ケアシステムに関わることのできる人材を育成する

達成目標：地域推進リーダー取得者を2名以上育成する

A-2. 地域リハ活動内容を体系化し、計画的に人材を派遣する

達成目標：地域リハ事業の依頼に100%対応する（コロナ禍による外部要因の影響を除く）

B-1. 介護医療院おはなで、集団コミュニケーション療法を安定的に算定する

達成目標：集団コミュニケーション療法のデータ集積を行い、病院ホームページに取り組みを掲載する事で、介護医療院おはなの広報を行う

B-2. 言語聴覚療法に係る診療報酬を安定的に算定する

達成目標：がん患者リハ料の提供体制を整え、令和4年度下期のがん患者リハ提供割合（77%）から、5%UPする

C-1. 摂食嚥下リハビリテーションの多職種連携を実践する

達成目標：回復期リハ病棟において摂食嚥下チームの活動を開始し、ミールラウンドやミーティングを6回以上開催する

C-2. 病院機能評価機構の認定を更新する

達成目標：実行計画のPDCAサイクルを回し、目標を達成する

D-1. 小児リハビリテーションに従事するスタッフ育成の流れを体系化する

達成目標：小児リハ人材育成マニュアルを活用し、3名以上に育成を開始する

D-2. 研究活動、学会発表を推進する

達成目標：3 演題以上、学会発表を行う

【今年度を振り返って】

2023 年度、S T 部門の成果は、1) 論文が 3 本掲載されたこと、2) 小児リハビリテーションに従事する S T を計画的に育成できたこと、3) 介護医療院での S T の活動が安定してきたこと、である。まず、掲載された論文のうち 2 編は査読あり論文で、論文を通して国内外に当院の S T の臨床を P R することができた。次に、小児リハビリテーションについては、院内での活動にとどまらず、地域の活動へスタッフを派遣したり、行政との会議に出席する機会が増えた。こうした機会でも専門性を発揮できる人材も育ち、対応できるスタッフが充実してきた。また、介護医療院では、集団コミュニケーション療法を安定的に算定できる体制が整い、サービスの質がさらに向上した。

2024 年度のトピックは、高度・専門機能の受審と、S T の九州学術集会在鹿児島で開催されることである。リハビリテーションの質を高めるためには、個人のスキルを高めるだけでは足りず、いかにそのスキルをチームのなかで発揮できるかが重要である。高度・専門機能はチームアプローチの基礎と応用を学ぶ絶好の機会である。その一方で、学際的な機会に積極的に参加し、学術的な経験を通して個人のスキルを高めることも重要である。2024 年度は、こうした機会を有効に活用し、S T 全体の臨床力を高められるよう活動を進めていきたい。

総合リハビリテーションセンター 義肢装具部門

【今年度の取り組み】

A-1. 介護医療院おはなでの業務計画。

達成目標：出向日程や回数などの計画を行いサービスを提供。

A-2. 鹿児島地区在宅サービスを利用されている（訪問リハ、施設）への対応。

達成目標：加治木で行っている ZOOM、ステラの活用対応を開始。

B-1. 適切な修理料金の徴収。

達成目標：修理代金の適性徴収を開始。

B-2. キラメキテラスヘルスケアホスピタルでの修理料金の徴収。

達成目標：P O 不在も多い為、マニュアルを作成。徴収を開始。

C-1. 装具療法、K A F O 利用者への介入件数拡大

達成目標：K A F O 利用者へは月平均 4 回介入。

C-2. キラメキテラスヘルスケアホスピタル通所リハ補装具定期メンテナンスの計画変更。

達成目標：補装具定期メンテナンス未実施 0。

D-1. 装具療法勉強会を拡大

達成目標：外部参加者の受け入れ。年 12 回開催。

【今年度を振り返って】

今年度は 3 人体制で行っていた業務を 2 名で行う事への変更や工夫を行う年度であった。整理をすることが難しい業務に関しては工夫を行い、利用者にしてはできるだけ負担がかからないように行ったが難しい面も多く、掲げた目標を達成できない分野もあった。今後の反省点としてアイデアを出しながら来年度は業務を行っていきたいと思う。急性期と回復期を繋ぐ目的の一つとして装具療法勉強会を ZOOM 開催とし、玉昌会以外の参加者を受け入れることができた。1 年を通し延べ 339 名の参加があり、そのうち玉昌会以外の参加者は 65 名だった。様々な病院のセラピストが参加して下さり、機会の少ない装具に対しての勉強会を開催できたことは鹿児島県の装具療法にわずかながら貢献したのではないかと思います。来年度も引き続き行っていききたい。

臨床心理室

【今年度の取り組み】

A-1. 患者満足の視点

達成目標：加算の取得

B-1. 健全経営の視点

達成目標：算定率を上げる

加治木温泉病院 部門別活動報告

C-1. 医療の質向上の視点

達成目標：メンタルヘルス支援の充実

【今年度を振り返って】

算定の流れを見直すことで、算定漏れを減らすことができた。さらなる算定率向上のため工夫をしていきたい。また、加算の取得に向けスタッフ全員が研修を受けることができた。メンタルヘルス支援についても見直しを行い、新たな取り組みを始めることができた。

栄養室

【今年度の取り組み】

A-1. 食事満足度の向上

達成目標：入院時に病室訪問し、嗜好・摂取量を把握し、満足度の向上に努める。

B-1. 病院経営への貢献

達成目標：栄養食事指導料を年間 200 件以上算定する。

B-2. 病院経営への貢献

達成目標：特別加算食を医療 40%、介護 55%以上算定する。

C-1. 医療の質向上への取り組み

達成目標：栄養サポートチームで年間 70 件以上算定し、患者様の栄養状態改善に努める。

D-1. スタッフのスキルアップ

達成目標：院外(W e b)研修会へ年 2 回以上参加し、所属内研修を 24 回以上開催する。

【今年度を振り返って】

今年度も感染対応による入院患者様以外は、入院時に病室訪問し、嗜好・摂取量・食事形態などを把握し、患者満足度の向上や栄養管理計画に繋げることができた。栄養食事指導料は 200 件算定し、入院中の栄養教育・退院支援に努めることができた。特別加算食は医療 70%、介護 67%算定した。病態に合った療養食を提供し質の良い栄養管理を行うよう努めた。栄養サポートチームでは、加算算定件数が 41 件（介入件数 102 件）と目標達成できなかったが、多職種協働で患者様の栄養状態改善に努めた。

今後も院内外の研修会に積極的に参加しスキルアップに努め、よりよい栄養管理が提供できるよう取り組んでいきたい。

通所リハビリテーション

【今年度の取り組み】

A-1. 意思決定

達成目標：研修会に参加し、移行支援加算対象者16名中4名移行する。

B-1. 健全経営の視点

達成目標：平均稼働率 40%以上。

新規加算取得・平均 20 名来院

C-1. 業務負担軽減

達成目標：自主訓練時に 15～30 分取組に参加継続できる。成人病・腰痛等が改善または発症しない。

C-2. 業務負担軽減

達成目標：業務内にモニタリングや評価入力ができるよう、業務中に出来る。残業時間数平均 9 時間。

D-1. 専門性の強化

達成目標：介護保険について研修会を開催し、目標達成できる。(100%)

【今年度を振り返って】

- 移行支援は3名にとどまる。ACPの研修会は参加できた。
- 平均稼働率36.2% (2単位) 新規加算取得なし。収益も前年度と比較すると113%増加していた。
- 自主訓練参加100%。オンラインストレッチ体操（健康王国の導入）腰痛や便秘の改善あり。
- ADL低下にて車いす使用や歩行器の使用が増加。付き添いトイレ誘導等増えたため、業務中のモニタリング実施

ができなかった。送迎後に行ったり、病棟応援を行ったりしたため平均残業時間11時間であった。

- 通所内の必須の研修会は開催できていた。介護保険についての研修会は時間外では困難であった。自己研鑽はオンラインセミナー等で研修が行っていた。介護報酬改定の研修会に参加できた。

薬局

【今年度の取り組み】

- A-1. 入院患者への服薬指導の充実
達成目標：服薬指導を年間通算 1000 件目指す。
- B-1. 薬剤費の削減
達成目標：後発品で価格が上昇した品目について、安定供給の確保かつ薬価差益が大きいものに変更する。
- B-2. 処方薬剤の削減
達成目標：年間を通して薬剤総合調整加算 200 件および薬剤調整加算 50 件を目指す。
- C-1. 新型コロナワクチン接種の運用
達成目標：ワクチン接種体制を継続し、基本型接種施設として適切なワクチン管理を行う。
- D-1. 薬局勉強会の実施
達成目標：WEB講演会などの受講を活用し、薬局勉強会を 2 回継続して行う。

【今年度を振り返って】

今年度は前年度達成できなかった服薬指導の充実を年間の目標とし、薬局スタッフの退職や新型コロナのクラスターによる影響等もあったが、目標の 1000 件を達成することができた。薬剤費の削減については、今年度も加治木・キラメキで全採用薬の発注先を整理し、薬剤の購入費削減に努めた。また、薬価が上がった一部品目に対して、違うメーカーへの採用変更を行い、薬剤費の抑制に貢献した。新型コロナワクチンの管理については、3 月いっぱいまで当院のワクチン管理業務は終了したが、基本型接種施設として地域に貢献でき、職責を全うできたと考える。

年度末にコロナのクラスターやノロウイルスのアウトブレイクがあり、薬局からも病棟への応援として、配薬カートへの薬剤セットを一部担当した。これまで病棟での薬の管理を十分把握していなかったが、応援に行ったことで業務を知るいい機会となり、これまで病棟で手書きで日付を入れていた作業を薬局で印字できるようにシステムを見直し、看護部と連携をとりながら業務改善に繋げることができた。

薬剤師の人員が少ない状況が続くが、来年度もパフォーマンスを落とすことなく、患者満足度の向上や病棟スタッフの業務削減・使用薬剤の削減・医療安全等に繋げていきたい。

放射線室

【今年度の取り組み】

- A-1. インシデント・アクシデントの提出
達成目標：インシデントを 4 件以上提出する
- B-1. エラストグラフィーの確立
達成目標：年間 30 件行う。
- C-1. 未修得業務の取得
達成目標：スタッフ各自が未修得の検査を出来るようにする。

【今年度を振り返って】

インシデント提出が目標の 2 倍となりスタッフのインシデント意識が少しずつ高くなっている。エラストグラフィーは医師への案内不足で目標の件数に達成しなかったため他の医師へも積極的に行う。下半期は通所リハの人員不足のため一時的に送迎の協力も行った。また、スタッフ 1 名が法人事務局事業企画推進部医療経営情報課情報管理室を兼務することになり、業務体制も見直すことになった。各自がスキルを見直し未修得の検査を修得できるようになったので今後も効率的で精度の高い検査を行えるように取り組む。

検査室

加治木温泉病院 部門別活動報告

【今年度の取り組み】

- A-1. より安全、質の高い検査の提供
達成目標：内部精度管理及び外部精度管理ともに $\pm 2SD$ 内の測定値を目標とする。
- B-1. 試薬のコスト削減
達成目標：各試薬使用状況を見直し、削減できる試薬の調整を行う。
- C-1. 院内・院外の研修充実
達成目標：年間に6回以上の研修会参加を目標とする。
- D-1. 心エコー・下肢静脈エコー検査の技術向上
達成目標：検査技師2名による、心エコー・下肢エコー検査のルーチン業務習得。
- E-1. インシデント・アクシデントの提出
達成目標：インシデントの提出6件以上。

【今年度を振り返って】

内部精度管理は日常のメンテナンスの実施と適切な試薬管理により、良好な結果維持に繋がった。外部精度管理では、測定値に問題は無く、良好な結果を維持できた。試薬コスト削減の目標が達成できたことによりほかの検査項目の見直しも調整していきたい。また、昨年度よりインシデント・アクシデントの報告が積極的に行えた。来年度は、さらに報告を積極的に行い、業務効率化につなげていきたい。

特定健診室

【今年度の取り組み】

- A-1. 特定保健指導の実施・法人の健康経営への協力
達成目標：前年度末までに実施した方達を途中終了することなく最後まで支援し、完了する。また新規介入50名を目標とし、初回面談まで終了する。
- B-1. 健診の拡大
達成目標：職員健診で35歳以上は協会けんぽ生活習慣病予防健診を利用。胃部検査実施人数50名を目標。また女性職員に対し、検診車による婦人科検診を案内・計画・実施。
- B-2. 収益増
達成目標：収益を2022年度より5%アップする。
- C-1. 航空身体検査の拡大
達成目標：件数を2022年度より5%アップする。
- D-1. 知識の向上
達成目標：院内・院外研修会への積極的な参加と報告書の作成。

【今年度を振り返って】

今年度の目標は概ね達成することができた。特定保健指導については、栄養室・外来と連携し、職員と一般合わせて新規介入49名と大幅増、また始良市の委託契約を受け、動機づけ支援対象者への介入も開始した。職員の健康診断では、検査施行医師の増員により、胃内視鏡検査を62名に実施することができた。以上の結果、収益が前年度比7.5%アップとなり、病院に貢献することができた。また9月より業務開始時間を30分早め、健診者来院前にメールの確認やミーティング・申し送りをを行い、スタッフ間で情報共有し、トラブル・リスク回避に努めた。2024年度も健診事業や健康増進事業に取り組み、職員や地域住民の健康管理や病気および介護予防、また5疾病の未病・予防に取り組んでいきたい。

歯科

【今年度の取り組み】

- A-1. 入院から在宅までの歯科医療サービスを提供する。
達成目標：入院中に口腔内の改善に努め、歯科医療を提供する。退院後も口腔衛生、義歯管理が必要な患者様に対し、ご家族に説明をし、切れ目のない歯科診療をしていく。訪問歯科診療の件数30件

の維持、増加を目指す。

B-1. 患者様の増加

達成目標：入院時チェックの徹底、また現在入院中の患者様の口腔内の再評価を徹底し、患者様の初診件数、月 50 件以上を継続し、初診件数の増加を目標とする。

C-1. 専門領域の知識習得

達成目標：インシデント・アクシデントの報告を月 1 件以上提出する。起こった事を部署内で検討し、未然、再発防止に努める。

D-1. 院内勉強会への参加率向上

達成目標：院内勉強会は 6 回以上、院外勉強会は 3 回以上出席する。

【今年度を振り返って】

切れ目のない歯科診療を目指し、退院後の歯科介入に努めたが、目標達成できず。また、初診件数の維持・増加を目指したが人員不足により目標達成できなかった。インシデント・アクシデント報告の徹底に努めたが、中途入職者への指導不足により目標達成できなかった。今後もスタッフ同士で情報共有を行い、再発防止に努めるようにしていきたい。また、入院から在宅に移っても、切れ目のない口腔管理を継続し、口腔機能の改善に努めていきたい。

地域医療連携センター

【今年度の取り組み】

A-1. スタッフのリスク意識向上にむけた取り組みの実践。

達成目標：インシデント・アクシデント報告を年間 18 件以上。全スタッフが 1 件以上、ヒヤリ体験を報告できる

B-1. 将来の病院機能を見据えた病床機能再編への取り組みの実践。安定した経営への取り組みの実践。

達成目標：地域包括ケア病棟について

- ① 自院一般病棟からの転棟した患者の割合 60%未満
- ② 在宅復帰率 72.5%

平均稼働 96.0%、278 床以上を達成する

C-1. 地域共生社会における機能分化、地域連携促進の体制づくりに努める

達成目標：当院の診療機能では対応できない患者を除き、無床クリニックからの入院希望紹介患者のお断りをゼロとする

外来から 3 か月に 9 件以上の入院を受け入れる

C-2. 在宅サービス事業部との連携強化

達成目標：退院カンファ実施率前年比 15%増。

介護保険対象者の法人内サービスへの紹介 37%を目指す

D-1. スタッフの経営に対する意識向上

達成目標：介護連携指導料の算定を年間 20 件以上

【今年度を振り返って】

新型コロナウイルス感染拡大に伴い入院患者さまとの面会について制限を行っていたが、8 月 28 日より対面による面会が再開となった。直接面会が可能となったことで、直接ご家族と話をする機会も増え、入退院支援もいっからスムーズに行えるようになった。しかし、クラスター発生時は入退院調整等も苦勞することもあった。スタッフの意識向上への取り組みとして、些細なことでも、インシデント報告を行うこととした。報告を行い、それをもとに業務改善や再発予防が行えた。しかし年間目標のインシデント報告は 25 件と目標を達成することはできなかったが、報告の提出のない職員もおり課題が残った。入院について、クラスターが発生したこともあったが、年間を通しての目標稼働率は 97.6%と目標を達成できた。後方支援連携先からの入院受入れを適宜行い、良好な連携を継続することができた。

地域医療連携センターは、今後も柔軟な対応が求められる。今後も地域連携の窓口として、当院が地域における機能を発揮し貢献していけるよう、地域と当院をつなぐための活動を取り組んでいきたい。

加治木温泉病院 部門別活動報告

事務部門 医事係

【今年度の取組】2023 年度

A-1. 接遇の向上、改善

達成目標：満足度調査 90%以上

B-1. 診療報酬の内容を把握し新規届出、減点の縮小

目標達成：新規届出 1 件、レセプト減点率 0.02%

C-1. インシデント・アクシデントレポートの提出の増加

目標達成：1 人 4 枚以上提出

D-1. 教育体制の向上

目標達成：事務部会にて勉強会の開催・学会発表 1 例、論文掲載

【今年度を振り返って】

医事内での減点への対策を行い減点の縮小、インシデント・アクシデントの提出の徹底により、概ね達成できた。

事務部門 クラーク係

【今年度の取り組み】

A-1. 接遇の向上、改善

達成目標：患者様に寄り添った接遇に努め、向上及び改善に取り組みます。

B-1. インシデント・アクシデント

達成目標：インシデント・アクシデントに対する意識の向上、改善に取り組みます。

C-1. 教育体制の向上

達成目標：人材の確保及び育成に努めます。

C-2. 外来補助業務の推進

達成目標：医師の負担軽減に取り組みます。

【今年度を振り返って】

医師事務作業補助者協会主催の全国学術集会に 2 演題発表した。

新人教育年間スケジュール表や業務チェック表を活用し、人材育成に努めた。

新たに小児リハ科外来診察補助業務を開始した。今後も医師の業務をタスクシフトできるように、個々のスキルアップや全体の質の向上に努めていきたい。

事務部門 総務係

【今年度の取り組み】

A-1. インシデント・アクシデント報告の徹底

達成目標：インシデント・アクシデントレポート提出昨年比+2.2%

B-1. 働き方改革

達成目標：残業時間の削減 上期平均 3.2H・下期平均 9.3H

C-1. 業務改善の見直し

達成目標：免許証・資格証・修了証等の整備

D-1. 教育体制の向上

達成目標：部署内勉強会 上期 2 回・年度末 4 回

【今年度を振り返って】

インシデント・アクシデントレポートの事案があった際、部署内で検討し作成を行った。今年度は退職者が続き苦悩したが、毎月面談を行い情報共有しコミュニケーションを図った。部署内の勉強会で情報共有・自己啓発に努めた。次年度は日本医療機能評価機構の『高度・専門機能(リハビリテーション 回復期)』の訪問審査を予定しており、無事更新出来るよう努めたい。

事務部門 院内保育・学童係

【今年度の取り組み】

A - 1. 保護者の満足度向上

達成目標：保育ICTサービスの活用

A - 2. 保育内容の充実

達成目標：グループホーム「花いちもんめ」との交流行事の計画・実施

B - 1. 経営状況の把握

達成目標：保育を取り巻く現状や最新の動向の把握・分析

C - 1. 保育の質の向上

達成目標：人権擁護の改善に向けたチェックリスト・ミーティングの実施

C - 2. 業務改善

達成目標：労働環境の改善に向けた取り組みの実施

D - 1. 自主研修会の実施

達成目標：自主研修会の開催、年間6回以上

D - 2. 院外研修会への参加と報告会の実施

達成目標：院外研修会にひとり年間5回以上参加・報告会の実施

【今年度を振り返って】

今年度は保育施設における重大事故や不適切保育が各地で相次ぎ発覚したことを受けて、保育の質の向上に向けた取り組みを強化しました。

保育の質を高める為に、職員間で話し合いを行う場を増やして情報共有を密に行いました。

また、職員が保育に関する研修を受講する機会を積極的に作り、職員一人ひとりが子どもの人権・人格を尊重する意識の共有化を図りました。

今年度は近隣の保育施設で重大事故が発生し、大変心を痛めました。

子どもの安全を最優先に、今後も質の高い保育が提供できるような環境作りに努めます。

加治木温泉病院 各種委員会

2023 年度 委員会・会議 一覧

	委員会名	開催日	目的
診療関係	診療情報管理委員会	第4火曜	診療録管理室の運営管理、診療録及び諸様式伝票類の検討等を行い、診療上の有効的効率的運営を図る
	診療情報提供委員会	カルテ開示要求時	診療情報の提供を適切に行うことを目的とする
	薬事委員会	2ヶ月に1回	薬物療法の合理的発展を図る
	栄養管理委員会	第3木曜	栄養管理・給食管理上の現状、その問題点・課題を把握し、改善策を検討・実施することにより円滑で適性な運営を図る
	NST委員会	第2火曜	症例個々に適切な栄養サポートを検討・実施していくことを目的とする
	輸血療法委員会	2ヶ月に1回	院内における輸血を安全かつ適正な輸血療法を推進し、輸血療法に関する事項について審議する
	臨床検査適正化委員会	2ヶ月に1回	臨床検査の精度管理・運営の適正化に関して必要な事項を協議する
	コーディング委員会	年2回	標準的な診断及び治療方法の周知を徹底し、適切なコーディングを行う体制を確保することを目的とする
	口腔機能向上委員会	第3水曜	口腔に関する現状を討議し、健全に維持するために職員の知識・技術向上を図ることを目的とする
	回復期病棟運営会議	第1火曜	回復期リハ病棟業務の円滑な運営を図る
	FIM会議	第1・3木曜	回復期リハ病棟入院患者のアウトカム評価対象者の選定、ADL（FIM得点）の改善に基づいて予後を予測し、適正な在院日数を検討することを目的とする
	地域包括ケア病棟運営会議	第2月曜	地域包括ケア病棟業務に円滑な運営を図る
	リハビリミーティング	第1火曜	リハビリテーション業務の円滑な運営を図る
	ベッドコントロール会議	毎週火・金	紹介入院に関わる内容を多職種で情報共有し、スムーズな支援・調整を図る
	透析運営会議	第3月曜	透析の円滑な運営および業務の適切な管理を図る
	手術室運営委員会	第3月曜	手術室の安全管理、感染防止、機械・備品の整備等について協議し、効率的な運営を図る
介護医療院運営会議	第3木曜	介護医療院の円滑な運営および業務の適切な管理を図る	
教育関係	倫理委員会	年2回	倫理上問題のある症例への対応および倫理に関する教育・研修などにより、患者様中心の医療を推進するために必要な事項を定める
	倫理検討会	第4月曜	院内における倫理的な事例等について、多職種で協議・検討し医療の質を改善することを目的とする
	サービス向上委員会	第4月曜	患者・ご家族より寄せられた意見・苦情・提案等に関して病院として真摯に取り組み、サービスの向上を目的とする
	個人情報管理委員会	3ヶ月に1回	患者や職員等に関する個人情報を適切に取り扱い、患者から信頼されることを目的とする
	教育委員会	第2月曜	職員の知識、技術の向上を目的とする
	看護部教育委員会(合同)	3ヶ月に1回	看護職、介護職の知識・技術の向上と協同を目的とする
	看護部教育委員会(Ns)	第3木曜	知識・技術の向上、主体性と自主性のある看護職の育成
	看護部教育委員会(CW)	第1木曜	介護職の知識・技術の向上を目的とする
	情報管理委員会	第3木曜	院内における情報管理業務の円滑な運営を目的とする
	機能評価委員会	第1・3水曜	安全で安心な医療が提供できるよう、日本医療機能評価機構の評価項目を用いながら、医療の質の維持や向上に向けた取り組みを行うことを目的とする

医療安全対策関係	医療安全管理委員会	第2金曜	医療安全管理対策を総合的に企画、実施することを目的とする
	リスクマネジメント部会	第1月曜	医療安全管理対策を実行あるものとするを目的とする
	褥瘡対策委員会	第3・4火曜	褥瘡を予防することを目的とする
	身体抑制廃止委員会	第4木曜	身体抑制廃止へ向けて職員の意識向上を図る
	医療ガス安全管理委員会	年1回	医療ガスの使用上の安全確保を目的とする
	透析機器安全管理委員会	年1回	人工腎臓が安全円滑に行え、安心した透析を提供することを目的とする
	労働安全衛生委員会	第4木曜	職員の安全と健康を確保することによって病院業務の円滑な運営を図る
	防災・防火管理委員会	年1回以上	病院および職員寮における患者・職員等の生命・財産の安全確保を目的とする
	院内感染対策委員会	第3月曜	院内感染の予防対策及び知識の啓蒙を図り、健全な医療体制及び施設確立を図る
	ICT(感染対策小)委員会	第1月曜	院内感染の予防対策及び知識の啓蒙を図り、健全な医療体制及び施設確立を図る
	看護部リスクマネジメント委員会	第3水曜	看護部のリスクマネージャーによる院内ラウンドやグループワークを通して安全活動を推進する
	看護部記録委員会	第4木曜	看護記録について勉強会や監査を行い記録の充実を図る
	マニュアル委員会	第4金曜	看護介護に関するマニュアルの見直し
その他	未収金会議	第4火曜	病院の未収金発生を抑制するための院内の諸手続きを定め、個人未収金の減少を目的とした未収金管理の確立及び維持のために必要な事項を定める
	親和会	年4回程度	会員相互の親睦を図る
	エコアクション委員会	2ヶ月に1回	持続可能な社会を構築するために、院内外のエコ活動に取り組み、エコアクション21認定及びその更新を目的とする
	材料部準備委員会	第1月曜	加治木温泉病院で使用するすべての物品を整備し支出を減らすために、各部署の意見を聞きながら物品の変更、削減を行い、安全に治療・ケアが提供出来ることを目的とする
	新規医療機器及び技術評価委員会	第1月曜	加治木温泉病院にて実施したことのない治療を行うための医療機器導入や、技術に関する安全性、倫理的側面を評価することを目的とする

地域リハビリテーション広域支援センター事業

2023年度 始良・伊佐高齢者保健福祉圏域 地域リハビリテーション広域支援センター活動

加治木温泉病院は 2002 年に鹿児島県より始良高齢者保健福祉圏域地域リハビリテーション広域支援センターとして指定されております。始良市・伊佐地域でのリハビリテーション技術支援、研修会の開催、地域住民の方の相談対応、地域包括ケアシステム構築のための協力活動を行っております。2023 年度も、2022 年度の地域へのリハ専門職の派遣は各機関のご協力の下、延べ 165 名を派遣することができました。各関係機関の皆さまのご理解とご協力に感謝申し上げます。2023 年度の活動内容は表の通りです。

表. 2023 年度 始良・伊佐圏域地域リハビリテーション広域支援センター活動

地域住民およびリハビリテーション従事者を対象とした研修会等			
年月日	対象（人数）	テーマ	講師
R5. ～R6. 3 (計 5 回)	萩原地区住民通いの 場ひまわりハウス	講話（難聴、危険予防、フレイル、嚥下、等） 体操（転倒予防、脳トレ）	PT6 名 OT4 名 ST2 名
R5. 6. 26 R6. 3. 18	始良市出前講座 (鍋倉地区)	フレイル体操	PT3 名 OT2 名
R5. 7. 31	特別養護老人ホーム 加治木望岳園	摂食嚥下障害の基礎と対応	ST1 名
R5. 11. 2	カトリック国分幼稚園	人工内耳術後の難聴児に対する幼稚園生活への 訪問支援指導	ST1 名
R5. 11. 14	鹿児島県精神保健福 祉センター	高次脳機能障害者支援のための専門職研修会	ST1 名
R5. 12. 7	住民通いの場 (小山田の里)	体力測定	PT1 名 OT1 名 ST1 名
R6. 1, 2, 3	始良市出前講座 (蒲生地区)	体力測定と体操指導	PT6 名 OT4 名
市町等・リハ関連施設への技術支援			
支援先	内容		職種
霧島市	霧島市児童発達支援事業所（全 24 回）		ST 24 名
霧島市	霧島市子ども発達相談事業（全 3 回）		CP3 名
始良市	始良市母子健康相談（全 12 回）		PT 12 名
始良市	始良市発達支援教室（全 20 回）		OT 20 名
始良市	始良市教育支援委員会（全 4 回）		OT 4 名
始良市	始良市地域自立支援協議会子ども部会		ST 6 名
始良市	始良市特別支援連携協議会（全 2 回）		ST 2 名
始良市	始良市 75 歳お誕生日おめでとう教室（全 12 回）		PT・OT24 名
始良市	通いの場（サロン等）健康教室（全 10 回）		PT・OT20 名
始良市	始良市地域ケア個別会議（全 8 回）		PT 2 名・OT 6 名・ST 8 名
始良市	始良市通いの場検討作業部会		ST1 名

加治木温泉病院 学術活動 院内研修

■全職員向け

2023 年度

開催 月日	研修内容	講師	研修分類
4 月	SDG s	配信動画	エコアクション
4 月	倫理の基本 ～医療機関において求められる倫理的な行動～	学研ナーシング	倫理
5 月	接遇・マナーの基本 ～患者・家族への関わり方～	学研ナーシング	接遇
5 月	基礎から学ぶ！医療安全	学研ナーシング	医療安全
6 月	労働安全衛生の基本的知識	学研ナーシング	労働安全
6 月	感染予防 ～手指衛生、標準予防策など～	学研ナーシング	感染対策
7 月	医療従事者が知っておくべき個人情報の適切な取り扱い方	学研ナーシング	個人情報
7 月	医療ガスの安全管理と事故防止作	学研ナーシング	医療ガス
8 月	災害医療対策における平時の備え	学研ナーシング	災害対策
8 月	認知症患者の対応	学研ナーシング	認知症
9 月	高齢者虐待における病院の役割	学研ナーシング	高齢者虐待
9 月	困ったときにも役立つアサーションの実際	学研ナーシング	看護共有コース
10 月	医療職のためのメンタルヘルス対策	学研ナーシング	社会人基礎力
10 月	感染経路別予防策をおさらい！ ～「もしも」に備えるアウトブレイク対策	学研ナーシング	感染対策
11 月	生活道路での交通事故を防ぐ」ために	配信動画	交通安全
11 月	チーム力を引き上げる！他職種で取り組む医療安全	学研ナーシング	医療安全
12 月	排尿自立指導料について	PowerPoint	排尿自立
12 月	身体拘束について	配信動画	身体拘束
1 月	診療用放射線の安全利用の研修	Y 配信動画	放射線科より
1 月	知っておきたい与薬の基本 ～安全で効果的な薬物療法のために～	学研ナーシング	薬局より
2 月	医療従事者・初学者向けサイバーセキュリティ研修	PowerPoint	遠隔医療推進室
3 月	患者の権利	PowerPoint 配信動画	患者の権利
3 月	「SDG s」	配信動画	エコアクション

■症例報告・最新情報カンファレンス

加治木温泉病院の症例カンファレンスは、治す医療から治し支える医療への医療の概念の変化に伴い、激変する医療・介護・福祉情勢を考慮し、会に参加する医療従事者並びに事務系の職員、多くのステークホルダーの方々が医療・介護・福祉・社会制度・社会的知識等の理解と見識を相互に深めることを目的とし、発表者が経験した症例や考察、専門知識等の発表並びに発表者が興味を持つ医療・介護以外の領域の発表も行っております。

開催月日	研修内容	講師
5月	レオカーナについて	中西先生
6月	体液組成と、末梢輸液	坂元先生
7月	葛根湯の小難しい話	宗岡先生
8月	働き方改革	夏越先生
9月	認知症～最近の治験も含めて～	折田先生
10月	ACP (advance care planning)	穂満先生
12月	上部消化管内視鏡検査（早期癌と内視鏡資料）	松田先生

■第22回 看護研究発表会

日時:2023年12月7日(木)

第一部 座長:大牟禮 和子(2階西病棟副主任)

演題1 介護医療院 拘縮手に対する汚染防止及び異臭改善の取り組み

発表者:東久保 友梨

演題2 人工腎臓センター 腎臓リハビリテーションが与える血圧への影響を考慮した支援

発表者:満山 まどか

演題3 2階東病棟 効果的なポジショニングによる褥瘡発生予防

発表者:池田 美鈴

演題4 2階南病棟 膀胱留置カテーテル閉塞予防に対する取り組み～衛生面、栄養面からのアプローチ～

発表者:白澤 一誠

演題5 3階西 病棟環境による高齢患者のせん妄発症と環境因子について

発表者:上猶 千尋

第二部 座長:中村 薫(2階南副主任)

演題6 外来 外来患者の待ち時間に対する実態調査～待ち時間のストレス軽減に向けた取り組み～

発表者:村田 渚

演題7 介護医療院おはな 介護医療院における職員の看取りに関する意識調査

発表者:堀内 麻紀

演題8 3階南病棟 ステップアップするための短期目標を取り入れることで得られる効果

発表者:東條 洋仁

演題9 2階西病棟 アドバンスケアプランニングシートを活用した退院支援への取り組み

発表者:岡元 忍

■第22回 介護研究発表会

日時:2024年1月31日(水)

司会進行:林 隆一郎(介護医療院おはな)

- 演題1 2階西病棟 陰部清拭用ワイプシートの視点から陰部洗浄を考える
発表者:中村 美智子
- 演題2 介護医療院 記憶力低下の改善を目的とした取り組み
発表者:木原 光輝
- 演題3 3階南病棟 更衣の自立に向けた取り組みについて
発表者:横山 優大
- 演題4 3階西病棟 ピクトグラムを用いた介護、看護、リハビリの連携
発表者:小路口 美登
- 演題5 介護医療院おはな 介護医療院におけるレクリエーションの取り組み
発表者:山田 かおり
- 演題6 2階南病棟 転倒・転落の予防~KYTへの取り組み~
発表者:濱島 由佳里
- 演題7 通所リハビリテーション 利用者の状態に応じた福祉機器の導入
発表者:宮本 翔平

■第11回 コメディカル研究発表会

2024年1月26日(金)

一、開会の言葉

一、一般演題発表

座長 鮫島 亮子 主任

演題1 新型コロナによる感染対策物品の消費量とコロナ禍による物品不足に対する対応

材料部準備室:川原 さつき

演題2 通所リハビリテーションにおける自主練習と身体能力の経時的変化

総合リハビリテーションセンター:田實 佑也

演題3 心音心電計を用いた心音と血圧変動の比較

臨床工学室:今泉 航洋

座長 柏木 友絵 副主任

演題4 退院支援強化に向けた後方連携促進の試み

地域医療連携センター:南 加奈

演題5 心音図検査の有用性の検証

遠隔医療推進室(法人事務局):川原 翔太

一、総評 小湊 裕一課長

一、閉会の言葉

■第 25 回 始良地区研究発表会

2024 年 4 月 8 日 月曜日（2024 年 3 月 21 日予定を新型コロナウイルス感染症拡大の為延期）

一、開会の言葉

一、挨拶 夏越 祥次院長

一、演題発表

座長 梅橋 直史

演題1 通所リハビリテーションにおける自主練習と身体能力の経時的変化

加治木温泉病院 総合リハビリテーション:田實 佑也

演題2 心音図検査の有用性の検証

法人事務局 遠隔医療推進室:川原 翔太

演題3 膀胱留置カテーテル閉塞予防に対する取り組み ～衛生面、栄養面からのアプローチ～

加治木温泉病院 2階南病棟:白澤 一誠

座長 原口 拓人

演題4 療育ケア児と家族を支える訪問看護導入の取り組み紹介

～療育ケアが必要な子どもと家族に、訪問看護スタッフができること～

訪問看護ステーションまむ:柳田 和江

演題5 介護医療院における職員の看取りに関する意識調査

介護医療院おはな:堀内 麻紀

演題6 ピクトグラムを用いた介護、看護、リハビリの連携

加治木温泉病院 3階西病棟:小路口 美都

一、総評 穂満 博文副院長

一、閉会の言葉

看護部

月 日	学校名	参加人員
5月9日～5月25日	龍桜高等学校 専門課程2年生 (在宅看護論実習)	8名
5月29日～6月15日	龍桜高等学校 専門課程2年生 (在宅看護論実習)	9名
7月3日～7月21日	龍桜高等学校 専門課程2年生 (在宅看護論実習)	9名
8月28日～9月14日	龍桜高等学校 専門課程2年生 (在宅看護論実習)	9名
9月19日～10月5日	龍桜高等学校 専門課程2年生 (在宅看護論実習)	8名
10月10日～10月26日	龍桜高等学校 専門課程2年生 (在宅看護論実習)	8名
10月30日～11月17日	龍桜高等学校 基礎課程3年生 (成人実習)	25名
11月27日～12月8日	龍桜高等学校 基礎課程2年生 (基礎実習)	27名
R6.1月23日～2月6日	龍桜高等学校 基礎課程2・3年生 (施設実習)	14名
	計	117名

総合リハビリテーションセンター

月 日	学校名	参加人員
5月15日～7月7日	鹿児島大学 P T	1名
5月15日～7月7日	鹿児島医療福祉専門学校 P T	1名
11月13日～12月8日	鹿児島医療福祉専門学校 P T	1名
7月24日～9月15日	鹿児島医療技術専門学校 P T	1名
9月25日～9月29日	鹿児島医療技術専門学校 P T	1名
1月15日～1月26日	鹿児島医療技術専門学校 P T	1名
4月17日～6月10日	第一医療リハビリ専門学校 P T	1名
7月17日～9月9日	第一医療リハビリ専門学校 P T	1名
10月23日～11月24日	九州栄養福祉大学 P T	1名
4月17日～6月10日	神村学園専修学校 P T	1名
7月10日～7月22日	神村学園専修学校 P T	1名
11月20日～12月16日	神村学園専修学校 P T	1名
3月6日～3月11日	神村学園専修学校 P T	1名
4月17日～6月10日	神村学園専修学校 O T	1名
6月26日～8月19日	第一医療リハビリ専門学校 O T	1名
7月17日～9月9日	鹿児島大学 O T	1名
10月2日～10月6日	鹿児島医療技術専門学校 O T	1名
11月13日～12月9日	第一医療リハビリ専門学校 O T	1名
2月12日～3月2日	第一医療リハビリ専門学校 O T	1名
3月4日～3月9日	第一医療リハビリ専門学校 O T	1名
5月15日～7月8日	鹿児島医療技術専門学校 S T	1名
6月5日～7月31日	九州保健福祉大学 S T	1名
7月3日～8月11日	国際医療福祉大学 S T	1名
9月4日～10月27日	県立広島大学 S T	1名
10月2日～10月28日	鹿児島医療技術専門学校 S T	1名
	計	25名

加治木温泉病院 実習受入れ

放射線室

月 日	学校名	参加人員
10月2日～10月27日	鹿児島医療技術専門学校 診療放射線技術学科3年	1名

栄養室

月 日	学校名	参加人員
9月4日～9月15日	鹿児島純心大学 看護栄養学部 健康栄養学科	1名

地域医療連携センター

月 日	学校名	参加人員
8月1日～9月1日	宮崎福祉医療カレッジ 社会福祉士学科	1名
R6.2月5日～2月9日	鹿児島国際大学 福祉社会学部社会福祉学科	1名
R6.3月5日～3月9日	鹿児島国際大学 福祉社会学部社会福祉学科	1名
	計	3名